

MISAWA

HEARTH

2007年度ミサワホームCSR報告書





HEART

深く信頼されるミサワホームをめざして

お客さまをはじめ、多くの人びととの共同作業である住まいづくり。だからこそミサワホームは、「HEART」すなわち信頼関係を大切にした企業活動に努めています。「HEART」の 카테고리では、その取り組みを詳しくご紹介しています。

HEART
HEARTH
EARTH

CSR 活動テーマ

地球にやさしいミサワホームをめざして

住まいという居住環境をはじめ、ミサワホームはあらゆる環境をデザインする企業として、「EARTH」すなわち地球環境に配慮した企業活動に努めています。「EARTH」の 카테고리では、その取り組みを詳しくご紹介しています。



EARTH

■会社概要

社名 ミサワホームホールディングス株式会社
(MISAWA HOMES HOLDINGS, INC.)
設立年月日 平成15年8月1日
本社 東京都新宿区西新宿二丁目4番1号 新宿NSビル
資本金 23,412,999,000円(平成19年3月31日現在)
事業内容 グループの経営戦略・管理並びにそれらに附随する業務

社名 ミサワホーム株式会社(MISAWA HOMES CO.,LTD.)
設立年月日 昭和42年10月1日
資本金 24,000,000,000円(平成19年3月31日現在)
従業員数 1,127名

主要事業所

本社 東京都杉並区高井戸東二丁目4番5号
本部 東京都新宿区西新宿二丁目4番1号 新宿NSビル
LACビル 東京都杉並区浜田山三丁目19番11号 LACビル
主要事業

- 工業化住宅の開発、住宅部材の供給
- 建築・土木・造園及びその他工事の設計、請負、施工及び監理 ●土地の開発、造成及びそれらの請負
- 地域開発・都市開発・環境整備の企画、設計、監理及び請負

※ミサワホームホールディングス株式会社とミサワホーム株式会社は平成19年10月1日をもって合併し、社名をミサワホーム株式会社に変更いたします。

■編集方針

ミサワホームは1999年に業界初の「環境活動報告書」を作成し、以降8年間にわたって環境マネジメントシステムの運用実績を中心に発行を続けてきましたが、本年度からは社会的側面の活動報告を加えた「CSR報告書」としました。ミサワホームのCSR活動テーマである「HEARTH」に基づき、前半を「HEART(深く信頼されるミサワホームをめざして)」、後半を「EARTH(地球にやさしいミサワホームをめざして)」という2部構成としています。作成にあたり、環境活動部分は環境省の「環境報告書ガイドライン(2003年版)」を、社会的側面についてはGRI(Global Reporting Initiative)の「GRIガイドライン2002年版」を参考にしています。

■対象範囲

ミサワホームホールディングス株式会社・ミサワホーム株式会社及びミサワホーム工場(木質工場:14工場、セラミック工場:2工場)

対象組織 本報告書の対象範囲はミサワホームホールディングス株式会社(ミサワホームグループの持株会社)及びミサワホーム株式会社(工業化住宅の開発・住宅部材の供給を担当する事業会社)を中心として記載していますが、一部、ミサワホーム工場(木質工場14工場、セラミック工場2工場)、販売・建設を担うミサワホームディーラーを含むミサワホームグループの活動(ミサワホームグループの一覧についてはP49を参照)についても記載しています。

対象期間 2006年度(2006年4月1日～2007年3月31日)を基本としていますが、必要に応じて2006年度以前及び2006年度以降の活動内容も記載しています。

発行日 2007年9月(次回発行予定 2008年7月)

■目次

会社概要・編集方針	2
トップコミットメント	3
企業理念	5
経営ビジョン	6
コーポレートガバナンス	9
2006年度CSR活動トピックス	11
HEART トップページ	15
お客さまと共に	16
従業員と共に	22
取引先と共に	24
株主と共に	25
社会と共に	27
EARTH トップページ	29
ミサワホームグループの環境への取り組み	30
ミサワホームの環境会計	31
ミサワホームの環境マネジメントシステム	32
ミサワホームの環境への関わり	33
2006年度環境活動の目標と実績	35
地球環境と共に	38
ミサワホームグループの沿革	47
ミサワホームグループネットワーク	49
第三者評価報告書	50

トップコミットメント

「住まいを通じて生涯のおつきあい」の
住まいづくりに努めます。

ミサワホームホールディングス株式会社 代表取締役

水谷和生



ミサワホームは2007年10月に創立40周年を迎えました。創立以来、住宅業界のパイオニアとして日本の住まいづくりの歴史とともに歩むことができましたのも、皆さま方からのご支援の賜物であると深く感謝いたしております。私どもミサワホームグループは、創立以来掲げているコーポレートスローガン「住まいを通じて生涯のおつきあい」の精神を大切にしながら、これからも住まいづくりに邁進してまいります。

昨年の「住生活基本法」制定によるフローからストックへの政策転換、200年住宅ビジョンの提案など、住宅業界には住宅の質をより高め、長期にわたって使用し、社会全体の資産として活用できる住宅の開発が強く求められています。

ミサワホームでは、大収納空間を確保できる「蔵」の提案や地震の揺れを半減する制震装置「MGEO」、自然の快適さを利用して心地よく暮らす先人の知恵を活かした「ECO・微気候デザイン」などの先進的な技術開発力や、17年連続グッドデザイン賞受賞の実績で定評のあるデザイン力などがあり、これらをさらに高めることでこうした社会的ニーズにお応えできる住まいをご提供して参りたいと考えています。

昨年、当社連結子会社のミサワホーム九州株式会社において不適切な会計処理が発覚し、関係各位に多大なるご迷惑をお掛けしましてことを、あらためてお詫

び申し上げます。

真摯に反省するとともに、再発防止のための体制づくりを進め、グループにおける業務の統一化や効率化などに取組み、グループ一体となってコンプライアンス意識の徹底と経営体質の改革を行っております。

ミサワホームグループでは昨年8月に、新たなステージに向かい確たる事業基盤を構築することを目的に、10年後を視野に入れた「中長期経営ビジョン」と、2006年度からの3ヵ年における「中期経営計画」を策定し、「Customers First」をキーワードとしてお客さま満足の徹底追求と時代をリードする発想力で「住まいのNo.1ブランド」を目指した様々な施策に取り組んでいます。

「住まいのNo.1ブランド」とは、お客さま満足度と商品力を最大限に高め、より多くのお客さまにミサワホームの住まいに対する考え方に共感していただきたいとの思いを込めています。

社会的な責任を果たし、社会から信頼される企業となるために、ミサワホームグループの総力を結集して「中長期経営ビジョン」「中期経営計画」を達成し、社会に向けてメッセージを発信できる住宅産業のリーディングカンパニーの構築を目指す所存でございます。

「HEART」と「EARTH」を大切に CSR活動に取り組んでまいります。

ミサワホーム株式会社 代表取締役

佐藤 春夫



住まいという字は人偏に主と書きますが、もともとは鳥の「巢」の字を使った「巢まい」だったそうです。鳥の巢は、もちろんヒナを育てるためにあります。親はかわいいヒナを風雨や外敵から守るために巣づくりをしています。

このように住まいづくりは、元来、子どものためにあるとミサワホームは考えています。子どもを心身ともに健やかに育てるためには「巢まい」づくりの原点に帰り、子どもの視点に立った住まいづくりを行うことが大切です。この考え方は、社名の「HOME」にも込められています。単なる器としての（HOUSE）ではなく、家族のふれあいが感じられるような、暮らし方までトータルに考えられた住まい「HOME」を提供する。それは、ミサワホームが創業以来掲げている住まいづくりの理念です。

さらに欧米では「HEARTH & HOME」という言い方があります。「HOME」に「HEARTH（暖炉）」があっはじめて暖かき我が家になる、という意味ですが、ミサワホームでは従来この「HEARTH」という言葉を「HEART（心）」と「EARTH（地球）」に分解し、「地球にやさしい住まいづくり」という意図を込めて環境推進活動のテーマとしていました。

今回、1999年から発行を続けてきた環境報告書を、社会的側面を充実させてCSR報告書に改めるにあたり、「HEART」は「深く信頼されるミサワホームをめざして」、

ならびに「EARTH」は「地球にやさしいミサワホームをめざして」のそれぞれのキーワードに読み替えています。

2006年度はフィンランド工場が持続可能な森林管理の促進に寄与しているとしてPEFC認証を取得、さらに住宅業界で初めてエコレールマークの企業認定を取得するなど、従来からの環境推進活動の成果に加え、より満足度の高いお客さまサポートを目指した「お客様相談センター」を開設するなど、社会的側面の活動も活発に行ってまいりました。

CSR報告書を発行するといっても、当社のCSR活動は緒についたばかりで、CSRの専門部署もまだ設けておりません。しかし、全部門が「住まいを通じて生涯のおつきあい」というコーポレートスローガンに基づき、自部門が果すべき社会的責任をまっとうすべく努力をしております。

おかげさまをもちまして、ミサワホームグループは創立40周年を迎えることができましたが、これからも会社として長く存続していくためにはCSR活動を事業の中心に据えて、全社一丸となって取り組まなければならないと考えています。当社グループのCSR活動はまだまだ不十分な点が多々ありますが、この報告書を最後まで一読いただきまして、忌たんのないご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

企業理念

ミサワホームの社名にある「HOME」の文字。そこには、単なる器としての家（HOUSE）ではなく、家族のふれあいが感じられるような、暮らし方までトータルに考えられた住まい（HOME）の提供、という創業以来の住まいづくりの理念が込められています。

[コーポレートスローガン]

私たちミサワホームグループは「住まいを通じて生涯のおつきあい」という精神のもと、良質の「住まい」を提供し、豊かな社会づくりに貢献します。

[経営理念]

1 安全・快適で環境を重視した家づくり、街づくりを行います。

2 法令を遵守し、倫理を重んじて誠実に行動します。

3 地球全体を視野に入れ、環境保全活動などを行い、社会に貢献します。

4 企業価値の向上に努め、長期安定的な成長により、ステークホルダーとの共存共栄を実現します。

5 グループ社員が相互に信頼し、協力し合って能力を発揮する職場をつくります。

6 適正な財務報告・情報開示と適切なリスク管理を行います。

[行動指針]

1 | お客さま（消費者）に対して

- 私たちは、卓越したデザイン・技術により、良質で心のこもった商品・サービスを開発・提供します。
- 私たちは、誠実で適切な営業活動を行います。
- 私たちは、わかりやすく正確で適切な表示、情報提供を行い、十分な説明責任を果たします。
- 私たちは、アフターサービス体制を整備し、迅速で的確に対応します。
- 私たちは、お客さまの個人情報適切に利用し、厳重に管理します。

2 | 従業員に対して

- 私たちは、個人を尊重し、その成長を支援します。
- 私たちは、倫理的な行動を促す企業風土を育てます。
- 私たちは、国籍、人種、性別などによる差別を行いません。
- 私たちは、安全と健康に配慮した労働環境を保ち、さらに向上させるよう努めます。
- 私たちは、人権を尊重し、いかなる形であれ強制労働・児童労働は行いません。
- 私たちは、情報の重要性を認識し、情報セキュリティの確保に努めます。

3 | 取引先に対して

- 私たちは、取引先の決定にあたっては公正な基準と適正な手続により選定します。
- 私たちは、取引先と契約に基づく対等な関係を保ち、公正かつ自由な取引を行います。
- 私たちは、取引先と社会的常識の範囲内での節度ある関係を保ちます。

4 | 株主（投資家）に対して

- 私たちは、長期的安定的な成長を通じ企業価値の向上に努めます。
- 私たちは、財務報告を含む経営情報を適時かつ適正に開示します。

5 | 社会・環境に対して

- 私たちは、企業活動そのものが環境保全活動となるよう努力します。
- 私たちは、法令と社会的常識に基づいて行動します。
- 私たちは、官公庁、行政機関などと健全な関係を保ちます。
- 私たちは、反社会的勢力・団体からの不当な圧力に屈しません。
- 私たちは、地域社会の安全な生活に配慮し、地域社会と有効な関係を保ちます。
- 私たちは、事業活動を行うあらゆる地域において、社会貢献活動を積極的に推進します。



経営ビジョン

この「中長期経営ビジョン」を達成するために、2006年度からの3か年における「中期経営計画」を策定しています。詳しくは下記のホームページをご覧ください。<http://www.misawa.co.jp/misawa/ir/pdf/info060824.pdf>

ミサワホームは「住まいは人格形成の場である」という信念をもって住まいづくりに取り組んでいます。そして、より多くのお客さまに共感していただけるよう、住まいを通じて、家族や地域、社会への貢献を目指します。

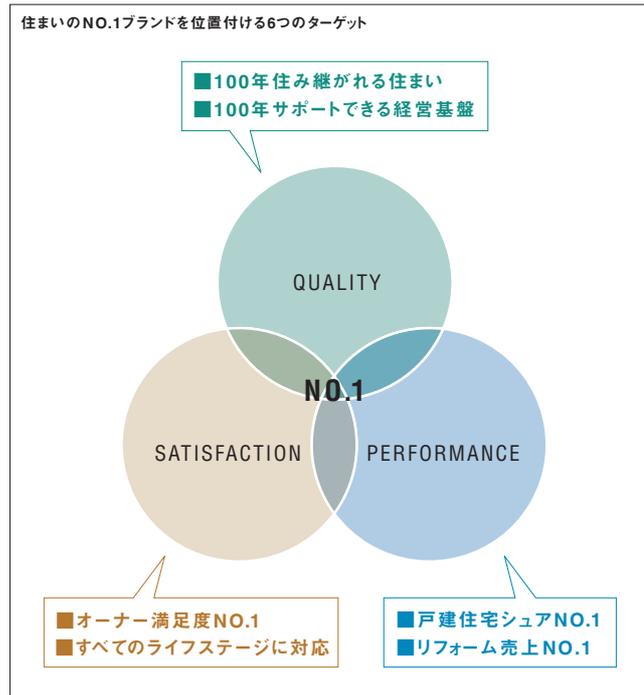
【中長期経営ビジョン】

私たちミサワホームグループは
コーポレートスローガン・経営理念・行動指針に基づき

「お客さま満足の徹底追求」と
「時代をリードする発想力」で

「住まいのNO.1ブランド」を目指します。

ミサワホームの目指す「住まいのNo.1ブランド」とは、単に売上や利益といった計数面でトップになるだけではありません。住まいを思うときに最初に思い浮かべてもらえる企業、というのがNo.1ブランドたる意味合いであり、ミサワホームの思いです。「住まいのNo.1ブランド」を目指し、「QUALITY」「SATISFACTION」「PERFORMANCE」という3つの視点から、以下に掲げる6つのターゲットを定めています。



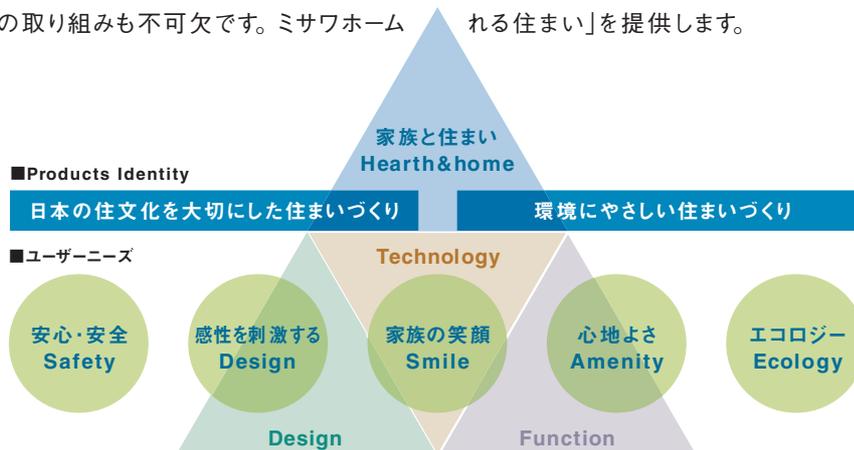
QUALITY

100年住み継がれる住まい

■ 技術力&デザイン力で、「100年住宅」を実現します。

刻々と変化する社会環境の中で、住まいに求められる価値観は多様化しています。一方で、「子育て」や「少子高齢化」など、普遍的なテーマへの取り組みも不可欠です。ミサワホーム

では「住まいは人格形成の場」というソフト面での信念と、永年培ってきた「技術力」「デザイン力」などのハード面でのこだわりを追求した、良質な社会ストックとなる「100年住み継がれる住まい」を提供します。



個の充実とこだわりへ

Simple PLUS

自由空間型住宅／経年美化住宅
地域性配慮型住宅

環境社会へ

SUSTAINABLE 2010

ECO・微気候デザイン住宅
新・100年住宅／家並み・街並みデザイン

少子高齢化社会へ

Amenity by Technology

二段階配慮住宅
子育て・家事支援住宅／健康・快適住宅

先進技術へ

Innovation

高効率エネルギー住宅
高性能・高耐久住宅／防犯・防災住宅

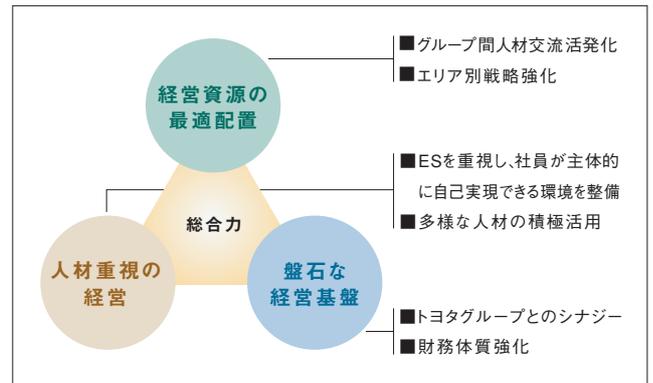
経営ビジョン

QUALITY

100年サポートできる経営基盤

■ グループ経営の質を高め、総合力を結集します。

お客さまにいつまでも安心してお住まいいただくためには、安定した企業経営が必要です。ミサワホームでは「経営資源の最適配置」「人材重視の経営」「磐石な経営基盤」により、グループ経営の質をさらに高めていくことを、「100年サポートできる経営基盤」という言葉で表現しました。“住まいを通じて生涯のおつきあい”を实践するために、お客さまサポートの仕組みを整え、継続的な業務の改善活動に取り組むことで無駄を減らし、高効率な経営体制を整えていきます。

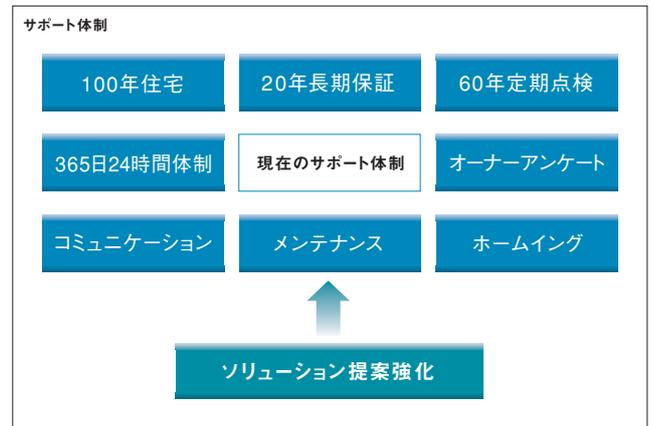


SATISFACTION

オーナー満足度No.1

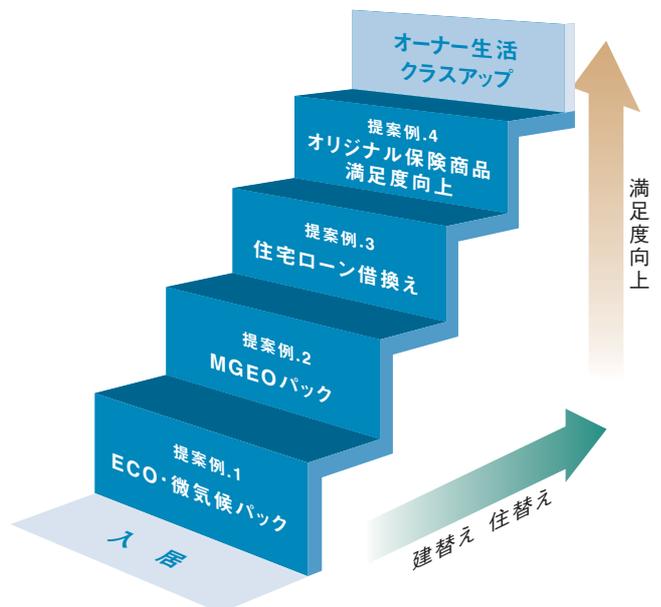
■ オーナーさまと緊密なリレーションシップを築きます。

お客さまの新しい生活は、住まいが完成してから始まります。住まいを通じて豊かな暮らしをおくっていただくためには、ご入居後のサポートが重要です。「長期保証・点検制度」をはじめとする現在のサポート体制に加え、さらなるソリューション提案の強化により、新築時のご満足はもちろんのこと、住まい続けるほどに満足度が上がっていくようなオーナーサポート体制を構築します。定期的に住まいの情報を発信し、同時にお客さまの声を素早く反映できる仕組みを整えて緊密なリレーションシップを確立。オーナー満足度No.1を目指します。



■ クラスアップ提案で、さらなる満足度向上を目指します。

ミサワホームの事業ブランドは、新築部門のミサワホームと、リフォームを主な事業とするミサワホームイングがあります。新築部門で培った独自の新しい技術・ソリューションをパッケージ化し、ミサワホームイングを通じてオーナーさまへご提案していくことで、住まいのクラスアップをお手伝い。さらなる満足度向上を目指します。リフォーム、住替え、建替え、金融商品紹介、資産活用などさまざまご提案を通じ、生涯のおつきあいを実践します。



SATISFACTION

すべてのライフステージに対応

■お客さまの全てのライフステージをカバーします。

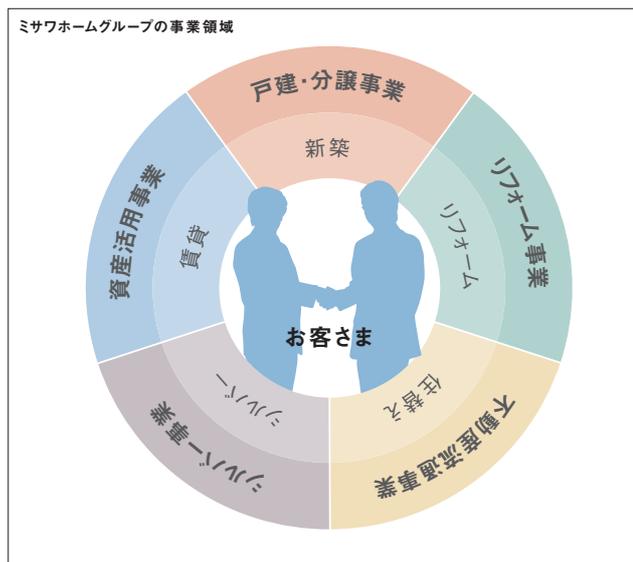
結婚、出産、子育て、親との同居など、人生には節目となるさまざまな時期があります。それに伴い住まいとの関わりも、新築からリフォーム、建替え・住替えはもちろん、シニア向け住宅や賃貸住宅など、常に変化していきます。ミサワホームではお客さまのライフステージを出発点とした事業展開を行い、全ライフステージをカバーするサービスの仕組みを整えていきます。



賃貸住宅による資産活用事業



豊富な実績があるシルバー事業



PERFORMANCE

戸建住宅シェアNo.1・リフォーム売上No.1

■10年後の売上棟数20,000棟を目指します。

商品とグループ経営のクオリティやお客さま満足度を上げていく活動の成果として、戸建住宅シェアNo.1とリフォーム売上No.1を目標とします。新築住宅の着工戸数は、少子高齢化などの影響により減少が予想されていますが、ミサワホームのシェアは全体の着工戸数の1%、持家に限ってもわずか3%です。拡大に向けた投資や教育などの営業インフラを整備し、10年後に完工売

上棟数20,000棟を目指します。また、これまでの新築に重点を置いてきた事業戦略から、フロー事業とストック事業のバランスの取れた拡大を目指します。ストック事業、特にリフォーム分野は今後大きな成長が見込める分野であり、既にお住まいいただいている50万棟のオーナー住宅という資産もあります。10年後のリフォーム売上2,000億円という目標を掲げ、新築とリフォーム拡大を両輪に、グループ売上高1兆円を達成したいと考えています。

項目	現状(2006年3月)	5年後	10年後
売上棟数 (内、賃貸住宅)	11,500棟(720棟)	14,000棟(1,000棟)	20,000棟(2,000棟)
リフォーム売上 ※グループ売上	500億円	700億円	2,000億円
グループ売上 (内、連結売上)	4,500億円(4,000億円)	5,600億円(5,000億円)	1兆円(9,000億円)

アライアンスやM&A、グローバル化を視野に入れ、将来を見据えた新規事業を展望しています。

- オリジナル部品の外部販売
- 介護施設を核とした高齢者在宅ネットワークサービスの拡大
- 不動産流通事業、賃貸管理事業の強化
- 他工法によるセカンドブランドの展開など



木造軸組用制震装置「MGEO-N」



介護専用型高齢者住宅「マザース南柏」

コーポレートガバナンス

ミサワホームは「住まいを通じて生涯のおつきあい」のコーポレートスローガンのもと、お客さま、株主はもとより従業員等事業活動に係わるすべての関係者の利益を重視し、コーポレート・ガバナンスの確立は極めて重要な経営課題と位置付け、企業経営の透明性と信頼性の確保に努め、企業価値の最大化と収益拡大に向けて、迅速かつ適正な経営に取り組んでおります。

■ガバナンス体制

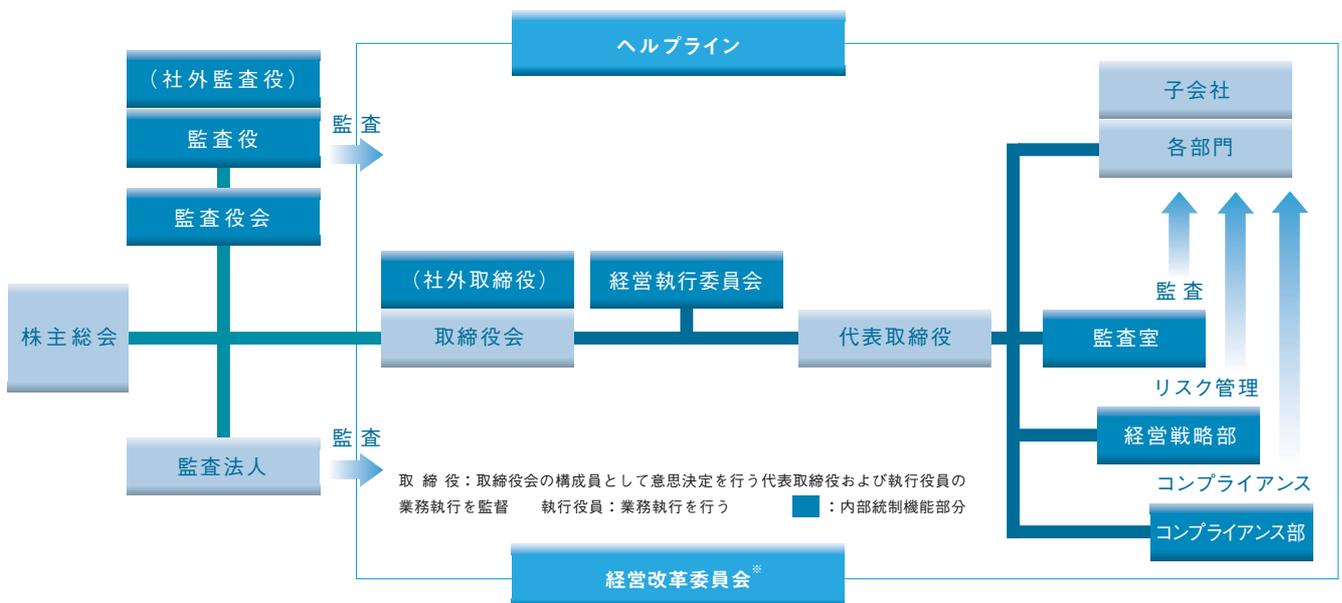
取締役会 ミサワホームホールディングスは、取締役会規程、経営執行委員会規程及び職務権限規程により、経営に関する重要な事項については、経営執行委員会または取締役会の承認を経て業務執行しています。取締役会は2007年6月末現在、取締役10名で構成し、内2名は社外取締役として、取締役会の意思決定の過程の公正性とその決定内容の妥当性を確保しています。なお、取締役会の経営監督機能を補完するため、執行役員及び監査役で構成する経営執行委員会は経営戦略部が事務局となり月2回以上開催し、迅速かつ適正な業務の意思決定を図っています。

監査役会 当社は監査役制度を採用し、4名の監査役（内3名は社外監査役）からなる監査役会を設置しています。常勤の監査役1名は、経営執行委員会をはじめ重要な会議に出席し、社外の監査役と情報の共有に努めています。

経営改革委員会 当社は取締役、執行役員、従業員その他当社の業務に従事するすべての者に対し、法令及び定款に適合する行動はもとより、誠実で倫理的な行動をとることを求めて、内部統制システムを構築しています。その一環として、コンプライアンス及びリスク管理に関する重要事項に関し、社

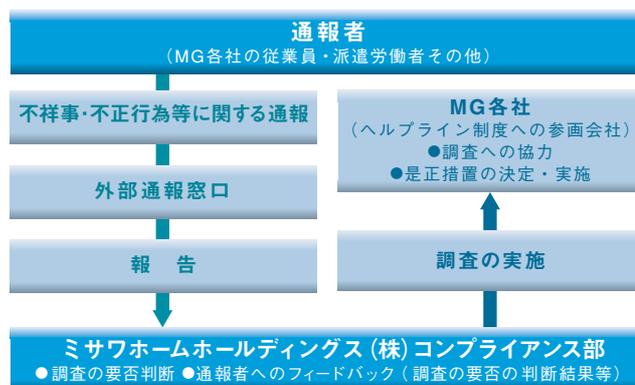
長執行役員を総括責任者とし、常務以上の執行役員、経営戦略部長およびコンプライアンス部長をメンバーとした経営改革委員会を2006年12月から設置。また、ミサワホームの子会社にも経営改革委員会の設置を求め、経営改革委員会と共同してグループ全体のコンプライアンスおよびリスク管理を確実にするためのマネジメントを実施しています。

その他の内部統制機能・体制 コンプライアンス部は日常のコンプライアンス活動を統括管理し、コンプライアンス上のリスクマネジメントを実施し、経営戦略部は、各リスク別、各部門別の具体的なリスクの把握およびリスクのコントロールを図り、業務の適正と効率性を確保するために、各部のリスク管理を統括しています。さらに監査室を設置し、各部門及びミサワホームの子会社も含めたグループ全体のコンプライアンス上のリスクの継続的な内部監査も実施しています。また、2006年5月に「内部統制システム構築の基本方針」を取締役会で決議し（2007年3月一部改定）、「取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確実にするための体制」などをはじめとする10項目の基本方針を定め、ホームページ上にIR情報として開示しています。



※2007年3月「コンプライアンス委員会」と「リスク管理委員会」を統合して設置

ヘルプライン ミサワホーム関係者が、グループ内における不祥事や不正行為などを見かけたり、起こしたりしまった際に相談・通報を受け付ける制度です。不祥事の拡大防止や不正行為の是正などを実施し、グループの社会的信頼を維持することを目的としています。たとえば同僚や上司が不正を行っていた場合、誰に相談すればよいかわからないなどの悩みを解消するために設けられている制度であり、グループの自浄作用を促すものです。実名・匿名いずれでも通報できますが、実名の場合でも関係者に名前が漏れないように配慮しています。



■個人情報保護

ミサワホームは、お客さまからの信頼とご満足を第一に考えた企業活動を基本とし、お客さまその他の個人の方からお預かりする個人情報を大切に保護することを重要な責務と考えています。その責務を遂行するため、個人情報の保護に関する法律に基づき、プライバシーポリシーを定め、これに従って個人情報の取り扱いを行うことを、全社に徹底しています。また、お預かりした個人データへの外部からの不正なアクセス、個人データの紛失・破壊・改ざん・漏洩などへの危険防止に

対する合理的かつ適切な安全対策を行っています。さらに従業員などに対しては、個人情報の取り扱いに関する規程を定め、ルールを明確にするとともにガイドブックを作成し、社内研修を実施して個人データの適切な管理の周知徹底に努めています。また、個人情報に関する事故が発生した場合は、その内容と経緯、対応方法と再発防止策などをホームページ上で開示しています。

ミサワホーム九州における不適切な会計処理

当社連結子会社のミサワホーム九州株式会社（以下、ミサワ九州）は、平成18年10月に平成19年3月期中間決算における会計監査において、監査法人より売上計上時期に問題があるとの指摘を受けました。

このため、当社は過年度にもミサワ九州に同様な事象が及んでいないかを、事の重要性に鑑み、内部調査委員会を設置して緊急調査したところ、過去5年間、売上計上時期に関する不適切な会計処理が判明し、当該決算期に加えて平成19年3月期の損益にも影響を及ぼすこととなりました。これによりミサワ九州は過去に提出しました有価証券報告書及び半期報告書の訂正報告書を提出することとなり、当社におきましても同様の訂正報告書を提出することとなりました。ミサワ九州は福岡証券取引所において上場しておりましたが、この件が有価証券報告書の虚偽記載に該当するという理由で平成19年1月29日をもって上場廃止処分を受けております。また、国土交通省九州地方整備局からも同様の理由で宅地建物取引業法違反として平成19年

3月28日から4月18日までの22日間、公共工事等一部の業務について営業停止命令を受けております。

当社の連結子会社において、このような不適切な会計処理があったことは親会社としての管理・監督が不十分であったと真摯に反省し、本件を機にグループ全体としても信頼の回復に向け全社をあげて改善措置等に取り組むとともに、代表取締役水谷和生を委員長とする「経営改革委員会」を設置し、再発防止等に向けて以下の項目を実施しております。

1.委員会設置目的

- (1) 役職員に対するコンプライアンス意識の再徹底
- (2) 連結経営体制及びガバナンスの強化
- (3) 不適切な会計処理の再発防止

2.主な実施項目

- (1) コンプライアンス研修の企画・実施
- (2) 売上計上の状況及びプロセスの確認
- (3) 売上計上の妥当性を確認する仕組みの検討

2006年度CSR活動トピックス

お客さまと共に アーバンデザイナーズ ビキフェミー 都市で快適に暮らす「URBAN DESIGNERS VIKIFEMY」発売

市場ボリュームの大きな都市圏の共働き世帯の生活シーンを想定した都市型住宅を発売しました。夏涼しく、冬暖かく暮らせる独自の「ECO・微気候デザイン」による「Cool&Warm」、防犯性と開放性を両立し、都市部の生活を最大限に満喫できる「Open&Close」、かしくキレイな暮らしを応援する「On&Off」の3つをコンセプトに、ミセスの暮らしを美しく、楽しく、気持ちよくする新しい提案が豊富。2階建、蔵付き2階建、3階建タイプの同時発売です。



お客さまと共に ハイブリッドプラン “ピースホワイトの家” 「HYBRID BLANC」発売

平和や神聖などの象徴として世界で愛される「白」をメインカラーにした、白壁の美しいハイブリッド住宅を発売しました。ピュアホワイトの外壁と切妻屋根が印象的な外観デザイン、白を基調に多彩なコーディネートができるインテリア、大空間・大開口で間取り変更もフレキシブルにできる空間設計、さらに独自の「ECO・微気候デザイン」や大収納空間「蔵」、制震装置「MGEO-H」などが充実。ご家族のしあわせな暮らしを、美しくかなえる住まいです。



お客さまと共に ベルリード カシーヤ 「戸建」スタイルの賃貸住宅「Bell Lead Cassiya」発売

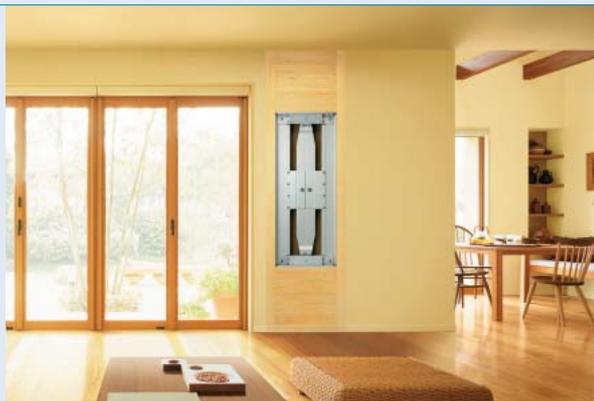
立地条件や敷地形状から共同住宅の経営が難しかった土地を有効活用できる、戸建タイプの賃貸住宅を発売。上下階の騒音トラブルの心配がなく、対面キッチンのLDKや豊富な収納など、ご入居者が戸建ライフを満喫できる空間設計を実現しています。またオーナーさまにとっては競合が少ないため高い入居率を期待できるなど、双方にメリットがいっぱい。コストパフォーマンスの高い2階建タイプと、ゆったり暮らせる平屋建タイプの2タイプです。



お客さまと共に **耐震+制震リフォーム「MGEO-R」発売**

エムジオ アール

ミサワホームイングでは、在来木造住宅のリフォーム用に開発した次世代耐震リフォーム「MGEO-R」を発売。耐震診断技術者による耐震診断に基づいた耐震補強を施した上で、新開発の制震装置を設置。地震による建物の揺れ幅を最大1/2に軽減します。大地震に対し、ご家族の安全だけでなく、震災後も安心して暮らせるようお住まいを守ります。一般在来木造住宅の耐震改修工事において、革新的な技術として各方面から評価されています。



お客さまと共に **住まいづくりのテーマパークが全国各地にオープン**

ミサワホーム本社内(東京都杉並区)に、住まいの体験型施設「ミサワパーク東京」がオープンしました。大地震の揺れを体験できる「地震シミュレーター」や「南極昭和基地の建物」をはじめ、独自の「ECO・微気候デザイン」や大収納空間「蔵」など、住まいづくりに役立つ先進の技術やデザインを体験できます。また、ミサワホーム岡山工場・福岡工場内に

も同様の施設「ミサワファクトリー」がオープンし、工場の生産ラインなどの見学とあわせてお楽しみいただけます。



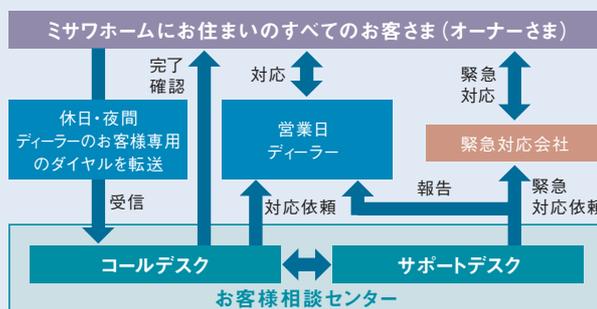
住まいづくりの新提案ゾーン



地震シミュレーター

お客さまと共に **「お客様相談センター」を開設**

ミサワホームにお住まいのすべてのお客さまを対象とした「お客様相談センター」を開設しました。販売・施工を担当するディーラー各社の休日及び夜間に対応するもので、これにより365日・24時間にわたるお客さまサポート体制が拡充。同センターはミサワホームで独自に構築されたシステムを活用し、コールデスクのコミュニケーターが受付・対応し、専門的な対応はサポートデスクが分担します。このセンターを活用し、より満足度の高いお客さまサポートを目指します。



*コールデスク:お客さま相談システムを活用してコミュニケーターが受付・対応
*サポートデスク:緊急対応など専門的な分野に対応

2006年度CSR活動トピックス

社会と共に 17年連続でグッドデザイン賞を受賞



あらゆる工業化製品を対象に、社会・文化・生活という観点からデザインを評価する「グッドデザイン賞」。ミサワホームは2006年度、ハイブリッド住宅「HYBRID ECO-design」、賃貸住宅「Belle Lead FORMAL」の2商品（建築・環境デザイン部門）、「外部ルーバーデザインシステム」、「C造作システム」、制震装置「MGEO」の3住宅部品（商品

デザイン部門）が受賞しました。これによりミサワホームは住宅業界ナンバーワンの17年連続、通算33商品・61住宅部品・2施設の受賞実績となりました。



HYBRID ECO-design



Belle Lead FORMAL



制震装置「MGEO」

社会と共に 「小規模多機能型居宅介護ホーム」の提供を開始

2006年4月施行の改正介護保険法にともなってスタートした、要介護者を市区町村単位で支援する「地域密着サービス」のひとつ「小規模多機能型居宅介護」。ミサワホームは介護・福祉事業の豊富な直営実績とノウハウをいかして、介護事業者、医療法人、土地オーナーさま向けに「小規模多機能型居宅介護ホーム」の提供をス

タートしました。住み慣れた地域での快適な生活を継続するため、通い、泊まり、訪問などを組み合わせた複合サービスを、地域社会のニーズに合わせてご提案できます。



小規模多機能型居宅介護ホーム外観例



施設プラン例

社会と共に ミサワホーム2007年版カレンダーが国内外で受賞

ミサワホームの2007年版カレンダーが、「第57回GKS国際カレンダー展・銀賞」「第58回全国カレンダー展・文部科学大臣奨励賞」を受賞。カレンダーもインテリアのひとつと捉えるミサワホームでは、1988年版から「偉人の筆跡」シリーズを開始しています。世界や日本の偉人たちが手紙などに残したサインや数字を収集・デザイン化し、各月1名の偉人の筆跡で構成。内外のカレンダー展で高く評価され、国際カレンダー展におけるミサワホームの受賞は4回目になります。



2007年版カレンダー「1月/ナポレオン・ボナパルト」



GKS国際カレンダー展表彰状

地球環境と共に **ミサワホーム・フィンランド工場がPEFC認証を取得**

ミサワホーム・フィンランド工場が、世界最大の森林認証制度「PEFC森林認証プログラム」を取得しました。「PEFC」には、森林管理に対する認証と、加工・流通の認証の2種類があり、今回は、加工・流通の認証「CoC認証」を取得しました。「CoC認証」とは、森林材を利用した製品に、認証された森林の伐採材が一定基準以上使用されていることを証明する認証制度です。



PEFC-CoC認証書



ミサワホーム・フィンランド工場

※PEFC: Program for the Endorsement of Forest Certification schemes

地球環境と共に **住宅業界初「エコレールマーク」の企業認定を取得**

トラック輸送から鉄道貨物輸送への切り替えにより、CO₂排出量の削減などに積極的に取り組んでいる企業・商品を認定する「エコレールマーク」を住宅業界として初取得しました。ミサワホームでは一部の資材調達をトラック輸送から鉄道貨物輸送に切り替え、鉄道貨物輸送の比率は2005年度実績で41%に上昇。輸送におけるCO₂排出量も2000年度比で約18%削減しています。



資材の長距離輸送にはJRコンテナを活用

地球環境と共に **「ふしぎ大陸南極展 2006」に出展**

ミサワホームは、国立科学博物館で7月15日から9月3日まで開催された「ふしぎ大陸南極展2006」に、南極昭和基地・第2居住棟の1室を再現展示しました。実際の設計図をもとに、外壁、内壁、屋根から室内のベッド、机、床暖房までそのまま再現。南極昭和基地の建物の約9割をお手伝いするミサワホームの高い技術を訴求しました。また会期中、通信衛星を利用して会場で昭和基地のライブ中継を実施。南極越冬隊員として参加中のミサワホーム社員も登場しました。



南極昭和基地のシンボル「管理棟」



HEART

深く信頼されるミサワホームをめざして

社会の責任ある一員として誠実に行動し、お客さまをはじめ、あらゆる人びとの「HEART」と深い信頼関係を築けるよう努めます。





HEART

お客さまと共に

ミサワホームグループは、すぐれた住まいづくりを通じてお客さまの満足度向上を追求します。

良質な商品の開発

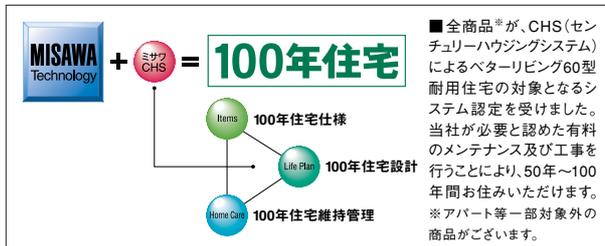
ミサワホーム独自の卓越した技術・デザインにより、良質な商品を開発します。

chapter.1

100年で価値をはかる住まいづくり

■ミサワホームはいつまでも快適・安心の「100年住宅」

家は建てて終わりではなく、歳月をかけて、価値を高めていくものです。建設省（現在の国土交通省）は1982年、住宅の社会的、個人的資産価値を高めることで、豊かな社会づくりを目指すCHS（センチュリーハウジングシステム）構想を発表。高耐久住宅の開発を推進していたミサワホームは1985年に建設省よりCHSの第1号認定を取得。1993年



メンテナンスを行うサービスカー



きめ細かなアフターサービス体制

には国土交通省認可の（財）ベタリビングにより、業界で初めてCHS60型耐用住宅の対象となるシステム認定を受け、「100年住宅」が誕生しました。窓まわり防水処理システムや可動間仕切りシステムなどを導入した「100年住宅仕様」、先進の技術で高品質を実現した「100年住宅設計」、長期的なメンテナンスが充実した「100年住宅維持管理」により、末永く快適に暮らせる住まいを実現します。

chapter.2

耐震+制震技術

■耐震性にすぐれた構造を採用するミサワホーム

日本は世界でも有数の地震国です。ミサワホームの木質系住宅は、すぐれた耐力壁である木質パネル同士を面接合する「木質パネル接着工法」を採用。強固な一体構造を実現する「モノコック構造」となります。ハイブリッド系住宅は、ユニット構法による超高層ビルにも採用される「鉄骨ラーメン構造」。どちらもどの方向から荷重がかかっても、全体に分散できる理想的な耐震構造です。その強さは、世界初



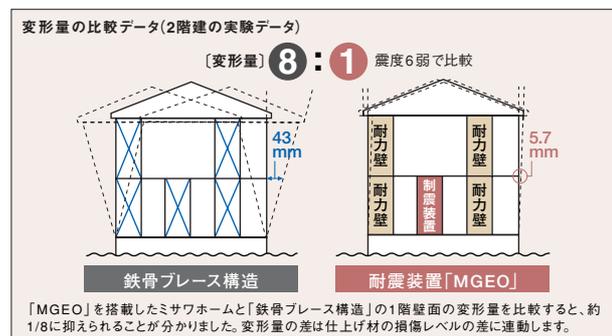
実大3階建建物振動実験

の「実大3階建建物振動実験」（木質系）や「実大ユニット耐力実験」（ハイブリッド系）で実証済みで、品質確保法でも最高の耐震等級を実現。阪神・淡路大震災などの大地震でも、ミサワホームは建物倒壊ゼロでした。

■地震を最大約1/2に軽減する制震装置「MGEO」^{エムジオ}

さらにミサワホームは、地震エネルギーを吸収し、揺れを最大約50%も抑えることができる独自の制震装置「MGEO」を開発しました。内装仕上げ材の損傷も低減でき、高い耐震性を誇ります。その効果は一般的な「鉄骨ブレース構造」の建物と比較した場合、震度6弱の場合で変形量を約1/8に抑えられる計算[※]。また、ハイブリッド系住宅用には「MGEO-H」、リフォーム用には「MGEO-R」を開発しています。

[※]他社公表データより算出し比較。「MGEO」は耐力壁4枚・制震装置2ヶ所の建物による実験データ。





chapter.3

シックハウス対策

■業界最高レベルのホルムアルデヒド対策を徹底

ミサワホームは、全商品の床・壁・天井の仕上げ材から建築基準法、規制対象外の建材に至るまで、健康被害を起こす「シックハウス症候群」の原因と考えられるホルムアル

部位	ホルムアルデヒド発散等級
壁紙	F☆☆☆☆または大臣認定品 (F☆☆☆☆相当)
床フローリング	
ラミネート天井	
建具・化粧階段	
クロス糊	

デヒド発散量をもっとも少ない規格である「F☆☆☆☆」を採用。業界最高レベルの対策を徹底しています。

建築材料の区分	ホルムアルデヒドの発散	JIS、JASなどの表示記号	内装仕上げの制限
建築基準法の規制対象外	↑ 少ない ↓ 多い	F☆☆☆☆	制限なしに使える
第3種ホルムアルデヒド発散建築材料		F☆☆☆	使用面積が制限される
第2種ホルムアルデヒド発散建築材料		F☆☆	
第1種ホルムアルデヒド発散建築材料		旧E2、Fc2 又は表示なし	使用禁止

建築基準法における規制対象建材

木質建材(合板、木質フローリング、パーティクルボード、MDFなど)・壁紙・ホルムアルデヒドを含む断熱材・接着剤・塗料・仕上げ塗材など※原則としてJIS、JASまたは国土交通大臣認定による等級付けが必要です。

24時間フロアセントラル熱交換換気システム



■熱交換型24時間フロアセントラル換気システム

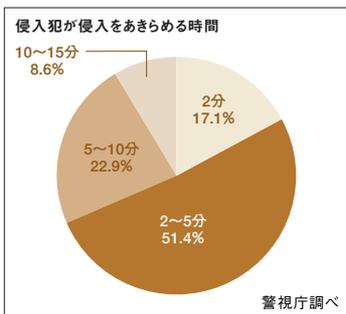
ミサワホームの住まいは、居室全体を24時間、計画換気できる「24時間フロアセントラル熱交換換気システム」を標準装備。新しい家具などから発生するホルムアルデヒドや、小さなゴミ、ホコリ、カビ、ダニなどの有害物質を屋外に排出して、クリーンで新鮮な空気を取り入れています。約70%の熱交換率で室内の温度ロスを抑えながら換気ができる、全熱交換方式です。フロアごとに換気ユニットを備えた上で、各居室に給気口を設け、フロア全体をひとつの空間のように空気を循環。さらに給気口には、除菌イオンユニットをご用意しました。フィルターろ過による空気浄化では除去できない空気に対して浄化効果があります。

chapter.4

防犯対策

■防犯性能を向上させる「3つのセキュリティ」

もはや侵入窃盗事件は他人事ではありません。侵入犯たちが犯行の際、もっとも気にするのは人の目。逆にいえば、いかに死角のない住まいをつくるかがセキュリティの基本



センサーライト付防犯カメラ

となります。ミサワホームでは、道路からの見通しがきくために空き巣が嫌う「狙われにくい家づくり」、ガラス破りや錠開け、破壊行為などを防ぐ「侵入しにくい家づくり」、先進のシステムなどにより不在時の心配を解消する「被害が出にくい家づくり」という3段階のセキュリティをご提案。すみずみまで安心できる住まいを実現します。

■犯行手口の進化に対処する防犯リフォーム

新築時には効果的な防犯対策も、ずっと有効であるとは限りません。ミサワホームでは、ホームイング事業によるリフォームによって、最新のセキュリティプランを住まいに導入。ご家族の末永い安心をサポートします。

■モノをまるごとしまえる大収納空間「蔵」

かつて日本には「蔵」という別棟があり、伝統や家風、モノを大切にすることを次世代へ伝え、育むことができました。この伝統の「蔵」を住まいの中に取り込んで設計したのが、ミサワホーム独自の大収納空間「蔵」。すぐれた収納力と構造強度があり、普段使わないモノや思い出の品々をまとめて収納できるので、いつもすっきり広びろと暮らせます。これまでは家の住み替え時に処分していた家具類もすっきりしまえて、家庭の粗大ゴミ削減も期待できます。床面積に算入されない※ため敷地が有効活用できるなどのメリットもいっぱいです。

※一定の条件があります。自治体により算入しているところもあります。
蔵は居室としての使用はできません。



「蔵」収納を設けたURBAN DESIGNERS VikiFEMY



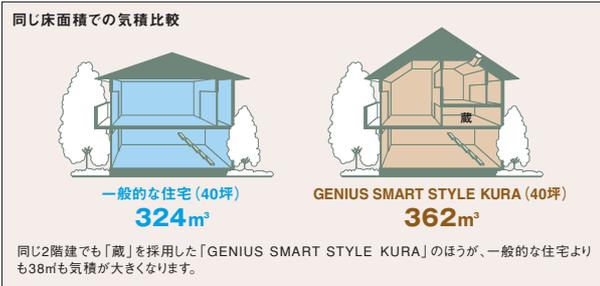
SMART STYLE KURA



「蔵」の採用で大空間を実現

■同じ床面積で大きな気積を確保

また「蔵」のある住まいは、2/3勾配屋根とすることで北側斜線制限などの法規制に対応しながら、下図のように一般的な住宅より大きな気積を確保できます。さらに「蔵」と合わせて一定の面積以内であれば、小屋裏収納も設置できます。



■「今」を快適にする第1段階のバリアフリー

ミサワホームでは、年齢にかかわらず誰にとっても必要なバリアフリー設計は、あらかじめ基本設計としてご提案。たとえば住まいの各所の段差を抑え、浴室の床面を滑りにくい素材にしたり、階段に手すりを設けておくといったバリアフリーは、誰に対しても安全対策となります。また、床暖房やエアコンなど、なるべく火を使わない設備にしたり、階段には足元灯などで段差が識別しやすいようにするといった工夫も有効です。



段差のない和室入口



玄関段差解消機

■「将来」に対応する第2段階のバリアフリー

さらに将来、ご家族の加齢にともなう変化にもフレキシブルに対応。たとえばトイレや脱衣室などは、人が倒れたとき助けやすいよう外開きドアや引き戸に変更します。さらに身体的な障害とつきあうことになった場合は、それに対応した個別バリアフリー設計もプラスできます。車いすの場合は、玄関アプローチにスロープや段差解消機を、階段には電動昇降機を設置します。



良質なサービスの提供

アフターサービス体制を整備し、迅速で的確に対応します。

chapter.1

消費者志向優良企業表彰

■住宅業界で初めての受賞

ミサワホームは住まいと暮らしのよきパートナーであるために、つねにお客さまの視点に立って企業活動を進めています。構造体の20年保証を実現した「新築住宅保証」など業界をリードする保証制度や「365



日・24時間体制」など万全のサポート体制などが評価され、1997年、ミサワホームは住宅業界で初めて「消費者志向優良企業」に選ばれました。「消費者志向優良企業」表彰制度は1990年に発足し、消費者利益の保護に積極的で、消費者志向体制が整った優良な企業を経済産業大臣が表彰しています。お客さま満足を第一に考えるミサワホームの住まいづくりが、高く評価された結果といえるでしょう。

chapter.2

安心を支える保証・点検制度

■20年の長期保証制度

ミサワホームでは「住まいを通じて生涯のおつきあい」をモットーに、住宅業界に先駆けて、画期的な3つの長期保証制度を確立。「新築住宅保証制度」は、新築住宅の構造体、防蟻、防水および仕上げ・付属部品・設備に対して保証する制度です。住宅の品質確保の促進に関する法律では、基礎、床、屋根などの構造体に10年間の瑕疵担保責任が定められていますが、ミサワホームではそれを大幅に上回る最長20年保証を実現。「維持管理保証制度」は、「新築住宅保証制度」による保証期間満了後も定期点検および有償耐久工事を施すことで、構造体、防蟻および防水の保証期間を延長する制度です。さらに「既存住宅保証制度」では、既に保証が満了している特定の専用住宅に対しても、住宅の売買時など必要な場合に有償点検および有償耐久工事の実施を条件に再保証を実施。再保証期間は耐久工事完了後より構造体10年、防蟻10年、防水5年間です。

■ご入居後の充実したサポート体制

安心の保証制度に加えて、ミサワホームではご入居後のサポート体制も充実しています。住宅お引渡し後6ヵ月目、11ヵ月目、23ヵ月目の「定期巡回サービス」では、メンテナンスのプロが住まいの状態をチェック。さらに5年目、10年目、15年目、20年目の「定期点検サービス」も無償で実施し、以後は5年ごとに有償点検を行っています。60年にわたる長期点検制度で、住まいの末永い安心を実現します。また、ご入居後の暮らしをより充実したものにさせていただけるよう、ミサワホームのオーナーさま向けにさまざまな冊子を発行しています。住まいの維持管理方法を詳しくご紹介している「ホームケアハンドブック」や、安全にお住まいいただくための情報をまとめた「安全のしおり」、住まいに関するお役立ち情報を満載した「ホームデザインクラブ」なども充実。ミサワホームのウェブサイトにも最新情報が満載です。

技術力で長期保証の末永い安心

ミサワホームは、一步先の保証・維持管理制度を導入		
	保証区分	
	新築住宅保証	維持管理保証 [※]
構造体	20年	10年毎延長
防蟻	10年	10年毎延長
防水	10年	5年毎延長
仕上・付属部品・設備	2年	—

※点検による有償耐久工事によって、延長されます。



定期巡回・定期点検サービス



ホームケアハンドブック

■災害時待機体制

住まいは建てて終わりではない。オーナーさまが暮らし続ける限り、できることのすべてをお手伝いしたい。ミサワホームではこうした考えから、緊急のご用件でもすみやかに対応し、迅速に処理できるよう「365日・24時間体制」でオーナーさまの暮らしを見守ります。また、不測の事態や万一の事故に対して、しっかりとした備えをしておくことも、オーナーさまへの大切なアフターサービスのひとつ。ミサワホームでは、たとえば台風が接近してきた場合、その規模や進路



万一の際も安心の「365日・24時間体制」

などの状況に応じて、工場、メーカー、ディーラー、指定工事店がそれぞれ24時間体制で待機。すぐさま適切に緊急体制がとれるようになっていきます。

■大地震にも安心の住まいと緊急対応

住宅産業における最大のリスクは、大地震などの自然災害によってオーナーさま宅が被害を受けることです。ミサワホームではこれまで、阪神・淡路大震



阪神・淡路大震災でもミサワホームは建物倒壊ゼロ

災をはじめ、多くの大規模地震に遭遇してきましたが、創業以来、これらの地震による建物倒壊の被害は1棟もありませんでした。しかし、建物の被害はなくても水道・電気・ガスなどのライフラインが寸断されたり、内装の軽微な損傷などが発生し、オーナーさまの生活に不便や不安を生じる可能性はあります。ミサワホームでは災害発生時において、被災者の住生活と心身の安全・安心を一刻も早く確保することが住宅会社における社会的使命だと考え、緊急対策について十分な準備体制を整えています。

新潟県中越地震での対応

2004年10月23日に発生した新潟県中越地震（マグニチュード6.8／震度7）。ミサワホームでは、翌日の午前8時に現地対策本部を設置し、被害の特に激しかった小千谷市・長岡市を中心とする震度5強以上の地区2,418棟について、電話による安否確認とお見舞いを4日間で実施しました。同時に、技術系社員を中心に毎日約50人、延べ800人の社員が、ペットボトルの水やカイロなどのお見舞い品を持って入居者宅を訪問し、被害調査を行いました。



新潟県中越地震による被害

■すべてのお客さまに高品質をご提供



木質住宅用パネル生産ライン

多品種少量生産を基本にしながら、生産効率と高品質の両方を実現しているミサワホームの生産工場。その信頼性の高さは、世界基準の公的認定でも証明されて

います。1996年に松本工場が品質管理の国際規格ISO9002認証を取得したのを皮切りに、現在では設計・開発部門を含めたISO9001認証を全国の工場と本社が取得し、販売・建設を担当するディーラーも続々と取得中。高品質で安定した性能の住まいをご提供し、お客さまのさらなる満足を追求しています。



ISO9001 認証



chapter.5

ミサワホームイング

■リフォームをトータルにお手伝い

住まいの増改築から模様替え、暮らしの快適リフォームをトータルにお手伝いするのが「ミサワホームイング」です。住まい全体をまとめてリフォームする「まるごとホームイング」をはじめ、木を超える性能のリサイクル木素材「M-Wood」による空間提案、独自の「かぶせ工法」による屋根・外壁のグレードアップ、健康と環境保全に配慮した「無公害防蟻工法」など、ミサワホームイングならではの先進技術を活用して、ご満足いただけるリフォームをご提案しています。ミサワホームが戸建住宅で培った経験やノウハウをいかし、お客さまのご要望にきめ細かくお応えします。

■業界初のグッドデザイン賞を受賞

「ホームイング」は「Home+ing」。愛着のある住まい（Home）をいかし、いつまでも現在進行形（ing）で手を加えながら、より快適な暮らしを実現して資産価値を高めることを意味しています。そのコンセプトや、環境に配慮した素材・工法・部品などが高く評価され、リフォーム業界では初のグッドデザイン賞（2001-2002）を受賞しました。



リフォーム前



リフォーム後の実例

chapter.6

オーナーサービス

■専用サイト「MISAWAオーナーズクラブ」を開設

インターネット上にオーナーさまの会員制サイト「MISAWAオーナーズクラブ」を開設しています。暮らしに役立つ多彩な情報や、メンテナンスに関するお知らせなどを随時発信しているほか、各種ご相談窓口やオーナーさま同士の交流をお楽しみいただけるコンテンツなども充実しています。



MISAWAオーナーズクラブ

■充実のライフサポートサービス

ミサワホームでは、ご入居後のよりよい暮らしをトータルにサポートするサービス内容も充実しています。右の一覧のように8カテゴリー・30種類以上の生活・サービス特典を付け、すべてのオーナーさまにご提供しています。

<p>ショッピング</p> <p>■ IDC 大家家具</p> <p>■ 豊田通商株式会社</p> <p>■ アカチャンホンポ</p> <p>■ Cassina IXC.</p> <p>■ ハーモニック</p>	<p>田中屋</p> <p>■ ホームファッション ニトリ</p> <p>■ 船山株式会社</p> <p>■ IDEMITSU</p> <p>■ COSTCO WHOLESALE</p>	<p>保険・セキュリティサービス</p> <p>■ ALSOK</p> <p>■ SECOM</p> <p>■ あいおい損保</p> <p>■ 東京海上日動</p> <p>■ ペットリレーションズ</p>
<p>情報サービス</p> <p>■ BIGLOBE</p> <p>■ USEN</p> <p>■ TownPita</p>	<p>引越し・宅配サービス</p> <p>■ ヤマトホームコンビニエンス</p> <p>■ 日本通運</p> <p>■ 資産維持・形成サービス</p>	<p>トラベル・リゾートサービス</p> <p>■ RE/SOL</p> <p>■ リゾートソリューション</p> <p>■ ニッポンレンタカー</p> <p>■ ケア・成年後見サービス</p>
<p>教養・教育サービス</p> <p>■ NHK出版</p> <p>■ NHK学園</p> <p>■ ニチイ</p>	<p>mini maid service</p> <p>■ ミサワホームイング</p> <p>■ タスキン メリーメイド</p> <p>■ タスキントゥルグリーン</p> <p>■ タスキン サービスマスター</p>	<p>■ Benesse</p> <p>■ LIFE COMMUNE</p> <p>■ マザアス南柏</p>

(2007年8月現在)



HEART

従業員と共に

ミサワホームグループは従業員の個性を尊重し、その成長を支援します。

労働環境の整備 従業員一人ひとりがいきいきと働ける労働環境を整備します。

雇用状況 (ミサワホーム及びミサワホームホールディングス)
従業員数：1,182人 (連結9,590人)
女性社員比率：12%

障害者雇用比率：1,28%
2007年度新卒採用数：96名
平均勤続年数：14年
(2007年4月1日現在)

chapter.1

人事評価制度

■新人事処遇制度の導入

ミサワホームでは2004年7月より、納得性の高い処遇を実現し、社員のやる気・やりがいを高めることを目的とした「新人事処遇制度」を導入しています。ねらいは①社員のやる気を引き出し、組織を活性化する、②属人に依らない透明性のあるマネジメントを確立する、③連結経営の中で真のグループ人事管理を実現する、④個々の社員のキャリアを充実したものとする、の4つです。それらの実現のために「処遇の改革」「育成の改革」「配置の改革」「採用の改革」を掲げ、施策展開をしています。



■「業績評価」と「コンピテンシー評価」

ミサワホームの人事評価制度は「目標による管理制度 (MESSE)」による「業績評価」と、「コンピテンシー評価」で構成されています。「業績評価」については賞与査定にダイレクトに反映させる一方、その成果を持続的に発揮する行動についての「コンピテンシー評価」を行い、その両方を昇給査定・昇格選考に反映させることで、バランスのとれた評価を実現しています。「業績評価」は目標管理制度に基づき、半期の業績をその課題の難易度と達成度を測定・判定することで評価。「コンピテンシー評価」は、職務遂行を通じて実際に行われた行動について、まずは半期ごとに評価を行い、年度末において、職務要件に照らして総合的に判断し、最終的な通期評価 (1年間) を行います。

chapter.2

社員育成制度の充実

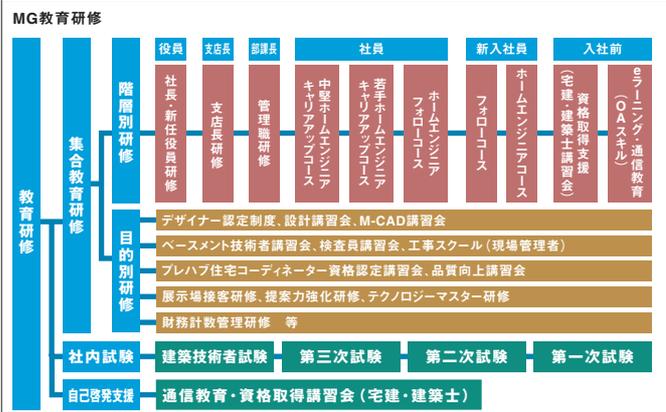
■MG教育研修



社員教育研修

ミサワホームでは「MG (ミサワホームグループ) 教育研修規定」を設け、教育研修の基本的事項を定めています。この規定の基本方針は、グループ社員の向上心と自己啓発意欲を喚起、助長し、各人が自ら人格の統治と資質の向上に努めるべく教育研修の機会を提供するとともに、現在および将来の業務上必要とされる知識・技能および態度を習得させ、グループの発展と社会的使命の達成に寄与する人材を育成することを目的としています。この規定に基づき、新入社員から経営者にいたる全階層に対し、それぞれに期待される知識・技能及び態度などを習得させる

「階層別研修」を導入。また、2007年度からは経営理念・行動指針の周知徹底を図るためにコンプライアンス研修を拡充し、一般社員・管理職はもとより、販売会社の社長を含めたトップに対しても研修を実施しています。



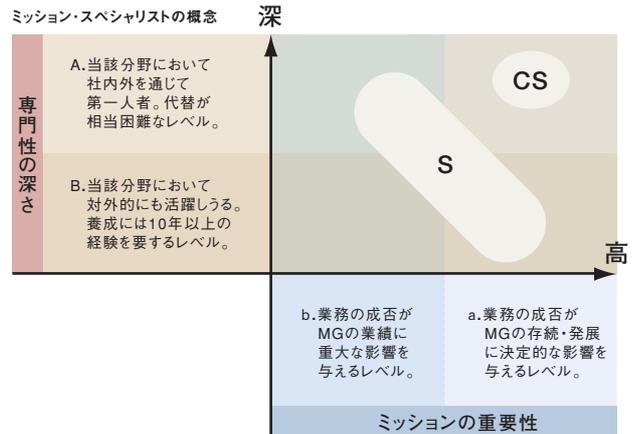


chapter.3

専門性の高い業務への評価

■ミッションスペシャリスト制度

ミッションスペシャリストとは、それぞれの業務担当分野においてミサワホーム固有の専門スキルを駆使して、重要な職務を遂行する者をいいます。2005年より、そのような専門スキルを有する社員の処遇改善を行ってモチベーションを高め、より高度な専門性と職務の重要性に基づいて、「チーフ・スペシャリスト (CS)」と「スペシャリスト (S)」の2段階の資格を設け、それぞれ管理職相当の手当てを支給しています。2007年3月現在、チーフ・スペシャリストは2名、スペシャリストは9名任命されています。



chapter.4

満足度調査の実施

■MGモチベーションサーベイ

ミサワホームではグループ社員が仕事に対し、常に意欲的な気持ちで取り組むことができるよう、2003年より「従業員意識調査」を実施しています。これは社員の仕事や会社に対する意見・意識を直接的に確認することにより、今後の人事施策の参考として活用することと、社員のモ

チベーション阻害要因を早期に発見し、改善に努めるために実施しているものです。2005年からは「MGモチベーションサーベイ」として、対象を連結子会社を中心としたグループ企業全体に拡大して実施。この調査結果を通じて、LQ休暇制度の導入や、育児・介護支援制度の拡充などの職場環境の改善が図られています。

chapter.5

休暇・休業制度の充実

■LQ休暇

ミサワホームでは2005年より、従来の夏期休暇(3日間)と創業記念日(10月1日)をフレックス化し、これに有給休暇1日を加え年間を通じて任意の時期に取得できる「LQ休暇制度」を採用しています。「LQ」とは「Life Quality(生活の質向上)」と「Long(長い)休暇(Q)」を掛け合わせた造語で、個人の働き方、生活に合わせた休暇を充実させ、仕事と生活の質の向上を図ることを目的としています。この制度を利用することで土曜・日曜日の定休日と合わせて最大9日間の連続休暇の取得が可能となります。

■育児・介護支援

2006年に策定した「中長期経営ビジョン」の「100年サポートできる経営基盤」づくりの一環として、中期経営計

画では社員の永続的成長を積極支援し、企業成長の礎とするという人事戦略を掲げています。そのために多様な働き方を尊重し、ワーク・ライフ・バランスの確立を支援するための各種支援制度の拡充を図っています。2007年4月からは「育児・介護休業規定」を改定し、通常の育児休暇とは別に、育児を行う社員の「勤務時間の短縮の措置」の適用上限年齢を、「子が3歳に達するまで」から「満10歳到達後の3月31日(小学校4年生末)まで」に大幅に延長しました。また、この措置は育児以外にも、要介護状態にある家族を介護する場合にも適用が可能です。

制度利用状況(2006年度)

育児休業: 3名	介護休業: 0名	時短措置: 3名
----------	----------	----------

(制度改訂後7名に増加)



HEART

取引先と共に

ミサワホームグループは取引先との共存共栄をはかり、対等な関係と公正かつ自由な取引を行います。

協力・教育・啓発 仕入先企業や施工工事店の方々とのコミュニケーションを推進しています。

chapter.1

仕入先企業との協力体制

■仕入先企業協力会「センチュリー会」

ミサワホームでは、オーナーさまにご満足いただける快適な住まいを提供するためには、新しい素材や機能を有した住まいの開発・品質管理・資源保護・環境保全などが極めて重要であると考えています。2006年度より、仕入先企業との信頼・協力関係をより強固なものとし、相互に発展していくための協力会として「センチュリー会」(4部会構成)を発足しました。活動内容としては、1) 新技術・新商品開発の

共同開発、2) 環境に配慮した資材調達、3) CS・品質向上、4) 環境に配慮した輸送体制についての共同開発等を行い、ミサワホームが取り組むべき課題を解決し、快適な住まいをご提供していくための活動を仕入先企業と協力の上、推進しています。



センチュリー会

chapter.2

施工店への施工教育

■施工品質を確保する作業員養成

ミサワホームでは、新規にミサワホームの工事を請け負う全国施工工事店の職方を対象に、ミサワホームにおける施工の基本知識の習得を目的とした工事スクールを実施しています。また、業種別における施工品質の確保を目的とした研修会を定期的に開催。ミサワホーム販売代理店では、社内規定で定められている検査・管理を実施した上で、社内基準・マニュアルに基づいた適切な施工方法を、現場ごとの現場作業員に対して指導・教育しています。その他、定期開催する施工工事店を集めた会議により、ミサワホーム

の新規技術、各工事店が持つノウハウ、さらに施工技術に関する情報を共有し、指導、教育の啓蒙活動を通じて、より高いスキルをもった作業員の育成が行われています。今後は、将来の施工力確保に向け、ミサワホーム、販売代理店、施工工事店が連携した教育体制、施工技能者の資格制度実現を目標に掲げ、さらに努力していきます。



工事スクール

chapter.3

安全大会・安全体制

■施工現場の安全を確保する活動推進

ミサワホームでは、施工現場での労働災害を撲滅するために、階層別教育をはじめ、安全パトロール、安全大会など、さまざまな活動を行っています。また、施工現場での安全意識を啓発するためのツールを適宜提供し、充実を図って

います。なお、従来の是正処置型安全活動から予防処置型の労働安全衛生マネジメントシステムによる安全活動への切り替えを検討しています。具体的には「P.D.C.A」サイクルの定着により、安全管理体制を再構築し、年ごとに確実にレベルアップできる管理体制づくりを目指しています。中でも、マネジメントシステムの核となる「リスクアセスメント」への取り組みをスタート。危険・有害要因を調査し、軽減処置を実施し、リスクの除去及び施工現場での「危険“ゼロ”」の目標を達成するための活動を推進しています。



安全に配慮した施工現場



HEART

株主(投資家)と共に

ミサワホームグループは企業価値の向上に努め、経営情報を適時かつ適正に開示します。

経営指標及び開示方針 経営情報の迅速かつ公平な開示に努めています。

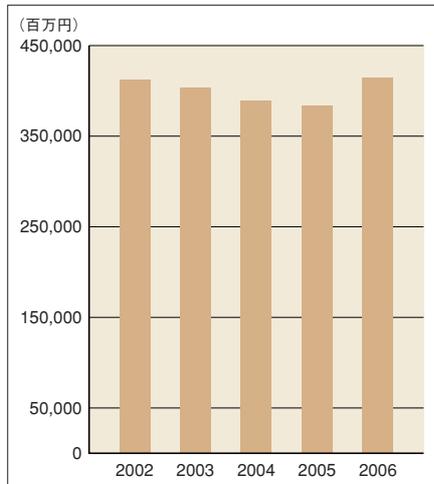
2007年3月期(2006年度)の売上高については、東北ミサワホーム株式会社の新規連結及び完工引渡し棟数の増加などにより、4,145億円(前期比8.0%増)となりましたが、利益率の低下と販売費及び一般管理費の増加により、経常利益は120億円(前期比17.1%減)となりました。

連結

(百万円)

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
売上高	412,120	403,127	389,595	383,941	414,566
営業利益	31,192	30,364	18,860	17,882	13,065
経常利益	23,487	20,368	11,463	14,564	12,069
当期純利益	2,020	▲129,133	▲203,251	124,024	191
売上高営業利益率	7.6%	7.5%	4.8%	4.6%	3.2%
売上高経常利益率	5.7%	5.1%	2.9%	3.8%	2.9%

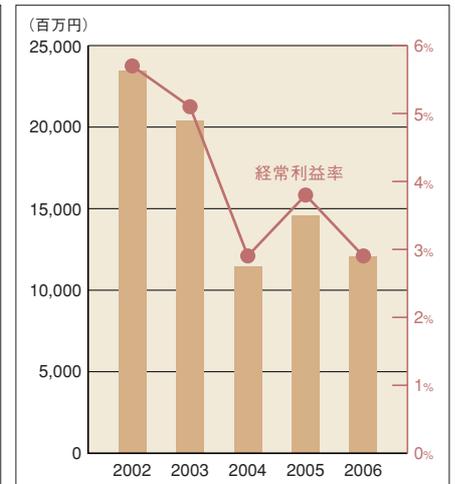
売上



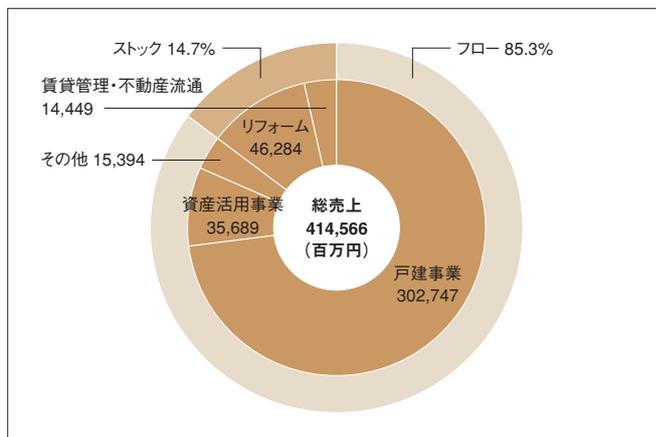
営業利益



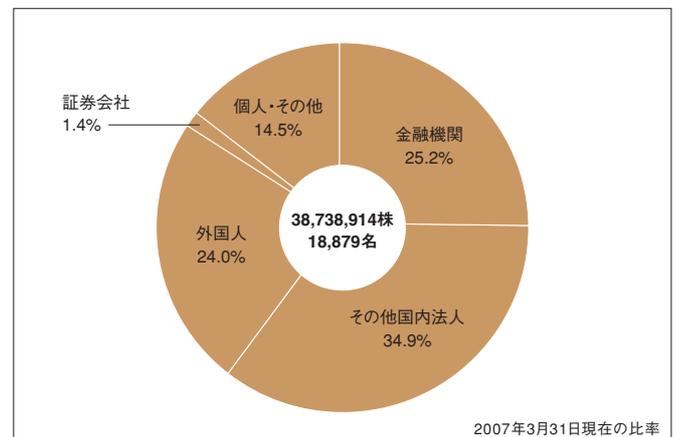
経常利益



2006年度セグメント別売上高



所有者別持株構成(普通株式)



■株主への配当方針

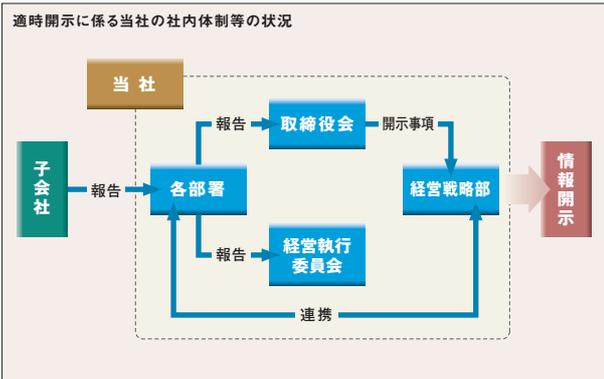
当社は安定配当の維持を基本としつつ、利益の状況と事業展開を総合的に勘案し、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間

配当については取締役会です。なお、当社は取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、会社法第454条第5項に規定する中間配当をすることができる旨を定款に定めています。また、2007年3月期の配当については、繰越利益剰余金が欠損となっているため、見送りとさせていただきます。

■適時開示に係る基本姿勢

ミサワホームではグループの経営理念として、社会・お客さま・株主・従業員に満足を提供することを掲げるなど、株主・投資家との信頼関係を構築・維持するために、重要な会社情報の適時適切な開示が極めて重要な責務であるとの認識に立ち、従来より鋭意適時開示に取り組んでいます。取締役会および経営執行委員会などで決定した事項や子会社および各部署で把握した事項のうち、証券取引法および東京証券取引所の定める適時開示規則により開示が要請される重要情報ならびに投資判断に影響を与えると思われる情報などについて、適宜開示活動に努めています。また、社長をはじめとした主要執行委員ら経営陣が、率先して説明責任を果たしています。開示活動の実際にあたっては、経営戦略部が主管部署となり、子会社および関連部署と連携して速やかな開示

に努めています。ミサワホームグループの内部統制活動の監視・検証としては、監査役の会社法上の監査のほか、弁護士など各分野における専門家の意見を参考にコンプライアンス体制の構築に努める中で、経営会議への報告を行うことにより、健全な業務執行の維持・向上に取り組んでいます。



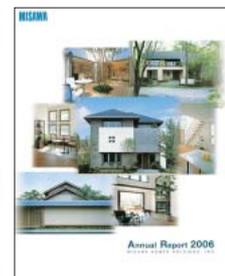
■IR情報の開示

ミサワホームでは中間・期末の決算発表後に、機関投資家や証券アナリストの方々を対象とした説明会を開催しています。これには社長をはじめ、財務担当役員、営業・商品担当役員も出席し、ご参加の方々からのご質問にきめ細かくお答えできるよう努めています。また、日常的には経営戦略部内にIRグループを設置し、個別面談による業績状況などのご質問や、IR担当者の個別訪問によるご説明など、年間の個別ミーティング約200回にて対応しています。この決算説明会の資料や、外国人投資家向けに作成した英語版の「アニュアルレポート」

を各期の決算短信と合わせてミサワホームホームページに掲載し、IR情報の迅速かつ公平な開示に努めています。



IR説明会



アニュアルレポート



HEART

社会と共に

ミサワホームグループはあらゆる地域で、社会資産をデザイン及びストックします。

まちづくり 人にも自然にもやさしい、快適に暮らせるまちづくりを通じて社会に貢献します。

chapter.1

社会的資産となる住環境づくり

■環境調和型のまちづくり

ミサワホームは、人と自然の共生に配慮したまちづくりを継続的に行い、環境保全をおこなっています。美しいまちづくりのポイントは、計画地の立地・気候特性の把握が重要で、樹木の選定や植栽等の5年、10年後の「まちなみ」の表情を意識した造園計画、日射遮蔽や防風を目的とした植

栽を想定しながらの、気候条件に適した植栽計画、エクステリアの素材選びのほか、メンテナンスケアなどが挙げられます。ミサワホームでは、自然の造形を尊重した「環境調和型まちづくり」を実践。もとの自然を大切にするため、敷地配置や道路計画を慎重に検討した「ヒルズガーデン桜川」(福岡県)や、太陽光発電戸建住宅「ヒルズガーデン清田」

(北海道)など、周辺の自然環境を考慮に入れたランドプランニングなどが評価され、数多くの表彰を受けています。さらに、微気候デザイン、エリアプランニング&プライバシーデザイン、コミュニティ、育てるまち、オーナーズライフという5つのテーマに基づく“五感にやさしいまちづくり”を通じて、持続可能な社会的資産となる住環境を創造します。



ヒルズガーデン桜川



太陽光発電住宅モデル団地「ヒルズガーデン清田」

chapter.2

微気候を取り入れたまちづくり

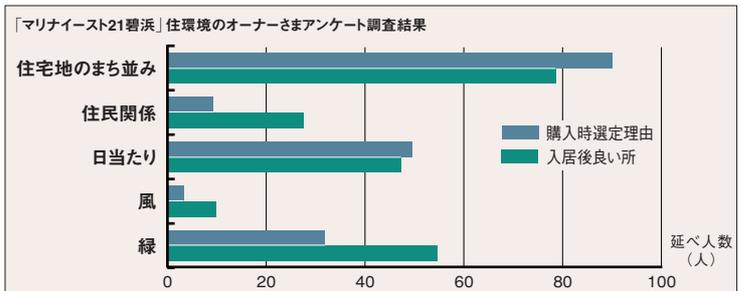
■高く評価された緑の計画的な植栽

ミサワホームでは、良好な微気候の形成を考慮した住環境づくりを実践しています。2002年10月に分譲を開始した「マリナースト21碧浜」は、千葉県浦安市の平坦な海浜埋立地にあり、周辺を中層建築物に囲まれているため、海風やビル風の影響を受ける立地条件でした。そこで、外周区画では海からの強い風をやわらげるため、家と家の間に常緑樹を密に植栽し、また風の流を読み街路に計画的な植栽を行い、微風の流れるまちづくりを実現。夏に日

差しを遮り、冬には葉を落として住まいに陽だまりをつくる落葉樹もバランスよく植栽するなど、外構造園まで一貫して考慮することで、自然のエネルギーの恵みを受けられるようになり、冷暖房の使用を抑えるなどエネルギー消費やCO₂排出量の削減にもつながっています。開発から5年が経過した現在のオーナーさまへの住環境調査では、「緑」に対する評価が入居前より1.7倍も高くなっており、緑を計画的に植栽した住環境が入居後も高く評価されていることが分かりました。



完成入居後5年経過した2007年の「マリナースト21碧浜」



社会貢献 住まいづくりの企業として豊かな住文化の発展に寄与し、社会に貢献します。

chapter.1

介護・福祉事業

■豊富な直営実績とノウハウで大きな安心

いま介護・福祉事業には、何より信頼が求められています。



高齢者複合施設「ケアホーム西五反田」「さくらハイツ西五反田」



介護専用型高齢者住宅「マザアス南柏」

ミサワホームでは介護・福祉事業を、2000年の介護保険制度導入以前から行ってきた豊富な実績があります。たとえば

1993年開設の介護専用型高齢者住宅「マザアス南柏」。専門スタッフによるきめ細かなサービスは、ご入居者とご家族から厚いご信頼をいただいています。また、東京都内の品川区高齢者複合施設では、ミサワホームが運営コンサルティングおよび施設運営をトータルに受託。独自の豊富な直営ノウハウにより、大きな安心をご提供しています。

chapter.2

バウハウスコレクション

■充実のコレクションを収蔵・展示

1919年に設立されたドイツの造形学校「バウハウス」。インテリア、グラフィックデザインなどの斬新な作品群は近代工業デザインの源流とされています。ミサワホームはその理念と創作活動に共鳴し、総合研究所内に展示スペース「ミサワバウハウスコレクション」を開設。作品約1,500点、蔵書約13,000点、資料約1,200点に及ぶコレクションを収蔵しています。毎回異なるテーマで企画展を開催するほか、美術館への出展などを通じて広く公開しています。



充実のコレクションを収蔵・展示

chapter.3

出版活動（住まいの文化誌）

■住まいと暮らしをテーマにした出版活動

住文化のシンクタンク、ミサワホーム総合研究所では、住まいと暮らしをテーマにした出版活動を積極的に行っています。数あるなかで特に評価が高いのが、著名文化人による書き下ろしエッセイと一流写真家による美しい写真を融合し、人と住まいの文化の歴史を探究した「住まいの文化誌」シリーズ。「日本人」、「天災人災」、「健康人間学」など巻を重ね、1992年には出版物として初めての建設大臣（当時）表彰を受賞しています。この他にも多彩な書籍を

発行。「住まいの安全を考える本」など、住まいづくり・暮らしづくりに役立つ内容が盛りだくさんです。



「住まいの文化誌」シリーズ

EARTH

地球にやさしいミサワホームをめざして

住まいという居住環境はもちろん、「EARTH」という地球環境まで視野に入れ、企業活動そのものが環境保全活動となるよう努めます。



ミサワホームグループの環境への取り組み

ミサワホームでは1997年に住宅業界初のISO14001認証を取得し、同時に「環境宣言」を公表しました。以降、その宣言に基づき、さまざまな環境活動を展開してきましたが、2006年度からは2010年までの5年間で達成すべき環境目的・目標を定めた環境活動計画を「SUSTAINABLE 2010」として策定。この計画に基づき、グループ一丸となって環境活動を展開しています。

環境宣言

【理念】

私たちミサワホームは、最も基本的な生活単位であり、人間形成の場である住まいを提供する企業として、住宅という居住環境はもちろん、街という生活環境、そして広くは地球環境までを視野に入れ、企業活動そのものが環境保全活動となるよう努めてまいります。

【行動指針】

- 1 ミサワホームグループの一人ひとりが地球環境問題の重要性を認識し、環境保全における自らの役割を考えながら行動します。
- 2 商品開発にあたっては、研究、開発、購買、生産、流通、使用(生活)、廃棄等の各段階において環境への影響を考慮し、より良い住まいづくりを追求します。
- 3 工場生産部門では、環境関連法規を遵守し、省資源、省エネルギー、廃棄物の削減に努めるとともに、自己管理基準を設け地域環境に配慮した生産活動を推進します。
- 4 現場生産部門では、周辺環境に配慮し、車輛運搬も含めた施工の合理化・効率化、建設廃棄物の低減を図り、より環境負荷の少ない施工システムを導入します。
- 5 環境保全に関連するイベント等への参画及び研究活動への協力・支援を行い、広く社会とのコミュニケーションを図ります。
- 6 社員全員への環境研修を徹底し、地球規模の視点に立った環境保全活動によって、社会に貢献できる人材を育成します。

SUSTAINABLE 2010
 2006年～2010年

新5カ年計画
2001年～2005年

中期3カ年計画
1998年～2000年

環境宣言
1997年策定

- 1

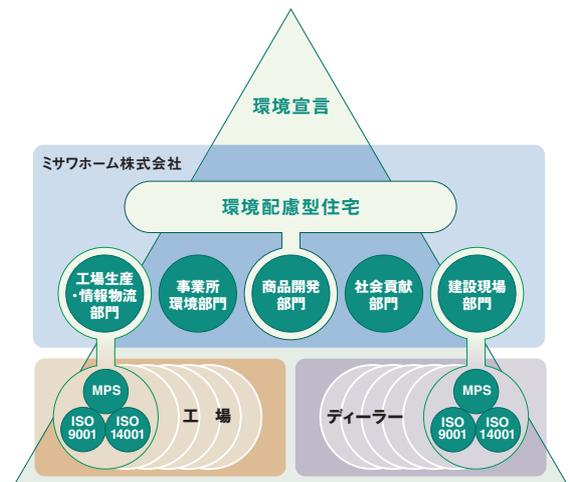
CO₂削減
 住宅のライフサイクルにおける二酸化炭素排出量を1990年度比20%削減します。
- 2

資源の有効活用
 地球環境における資源の有効活用を図るため、環境配慮素材の活用や建物の長寿命化・長期耐久化を促進します。
- 3

ゼロ・エミッション
 2010年度までに工場・現場におけるゼロ・エミッション化を達成します。
- 4

健康配慮
 室内環境汚染原因物質を削減し、健康に配慮した住宅を供給します。
- 5

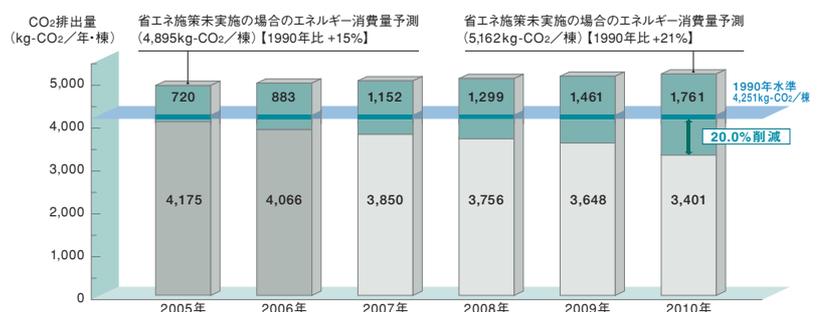
街づくり
 人と自然が共生し、資産価値の高い街づくりを促進します。



「SUSTAINABLE 2010」は、住まいのさらなる省エネ化を推進しています。

ミサワホームが供給する住宅の、居住段階・工場生産段階・輸送段階それぞれのエネルギー排出量の削減を行い、CO₂排出量の1990年度比20%削減を目指します。

CO₂削減シミュレーショングラフ





ミサワホームの環境会計

ミサワホームでは、環境保全対策に関わる費用とその効果を定量的に把握・分析するため、環境会計を2000年度より導入してきました。継続的かつ効果的な環境経営をめざし、ステークホルダー（一般消費者、取引先、投資家、NGOなど）の方々への情報開示を推進しています。2006年度も昨年度に引き続き、環境省発表の「環境会計ガイドライン（2005年度版）」を参考に算出し、環境保全活動とそのコスト・効果をより明確にするため、当社独自の集計項目（経済的効果・CO₂削減効果）を加えています。

ミサワホームの環境保全コストおよび効果

項目	環境保全コスト(百万円)			効果	
	ミサワホーム	工場		経済効果 (百万円)	CO ₂ 削減効果 (t-CO ₂)
		木質	セラミック		
			生産		
事務所活動	7	—	—	11	386
公害防止	—	153	37	—	—
省エネルギー・創エネルギー		7	33	655	9,310
省資源		214	—	53	162
新素材・リサイクル	334	82	14	—	6,875
長期耐久性		—	—	—	▲28
健康な居住環境		—	—	—	—
自然環境	13	9	1	—	—
廃棄物(工場・現場)	76	32	11	▲19	1,497
環境マネジメントシステム		48	9	—	—
合計	430	545	105	700	18,202

集計対象

会計対象期間
2006年4月～2007年3月

会計対象範囲
ミサワホーム株式会社(本社・本部・LACビル)
ミサワホーム工場16工場(木質工場14工場、セラミック工場2工場)

集計方法
環境省発行の環境会計ガイドラインの基準に沿って算出、当社独自の項目で集計

環境投資
環境保全に係る新規投資は、木質工場が285百万円で、セラミック工場が0.4百万円。
ミサワホーム株式会社における投資はありませんでした。

経済効果
実質的効果及び推定的効果を計上。
実質的効果…環境保全活動の結果得られた節約益、有価売却益を計上。
推定的効果…環境保全活動が寄与したとみなされる付加価値等、仮定的な計算に基づく効果を計上。

CO₂削減効果
環境目的・目標の実績をもとに環境活動評価プログラム(環境省)およびエコアクション21
(社団法人プレハブ建築協会)のCO₂排出量の算出方法により計上。

2006年度集計結果について

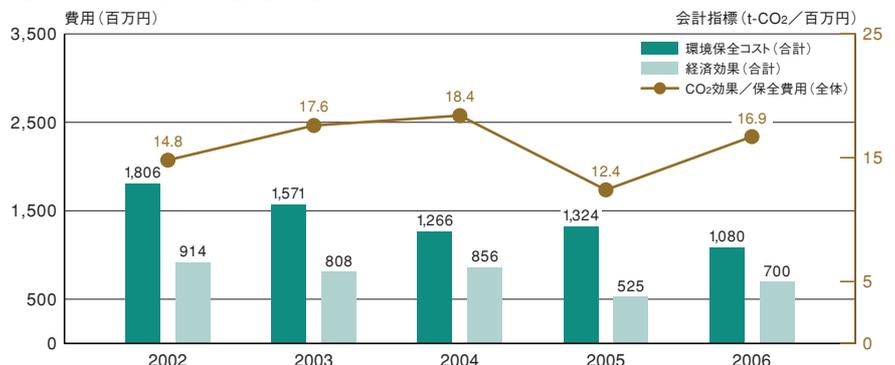
2006年度ミサワホームグループの環境保全コストとして、「ECO・微気候デザイン」を取り入れた商品、環境配慮部品の開発等で10億8,000万円となりました。経済効果(みなし含む)としては、7億円で前年度比33%アップ。CO₂削減効果については、18,202t-CO₂で前年度比11%アップとなりました。環境保全効果については、2006年度より開始した「SUSTAINABLE2010」に基づきCO₂削減に取り組んだ結果、経済効果・CO₂削減効果ともに前年比を上回る結果となりました。環境保全コスト当たりのCO₂削減指数は16.9t-CO₂/百万円となり、前年度比約36%アップと向上しています。

(参考) 環境省 環境会計ガイドラインによる集計

単位:百万円

環境省ガイドライン集計項目	環境保全コスト(費用)	ミサワホーム (本社・本部)	ミサワホーム工場			
			木質工場		セラミック工場	
			投資額	費用額	投資額	費用額
(1) 生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト(事業エリア内コスト)	① 公害防止コスト	0	230	153	0	37
	② 地球環境保全コスト	0	16	7	0	33
	③ 資源循環コスト	7	39	328	0	25
(2) 生産・サービス活動に伴って上流又は下流で生じる環境負荷の抑制コスト(上・下流コスト)	0	0	0	0	0	0
(3) 管理活動における環境保全コスト(管理活動コスト)	42	0	48	0	9	0
(4) 研究開発活動における環境保全コスト(研究開発コスト)	347	0	0	0	0	0
(5) 社会活動における環境保全コスト(社会活動コスト)	34	0	9	0	1	0
(6) 環境損傷に対応するコスト(環境損傷コスト)	0	285	0	0	0	0
小計		430	投資額	545	0	105
合計				285	費用額	1,080

(参考) これまでの環境投資、及び経済効果の推移グラフ





ミサワホームの環境マネジメントシステム

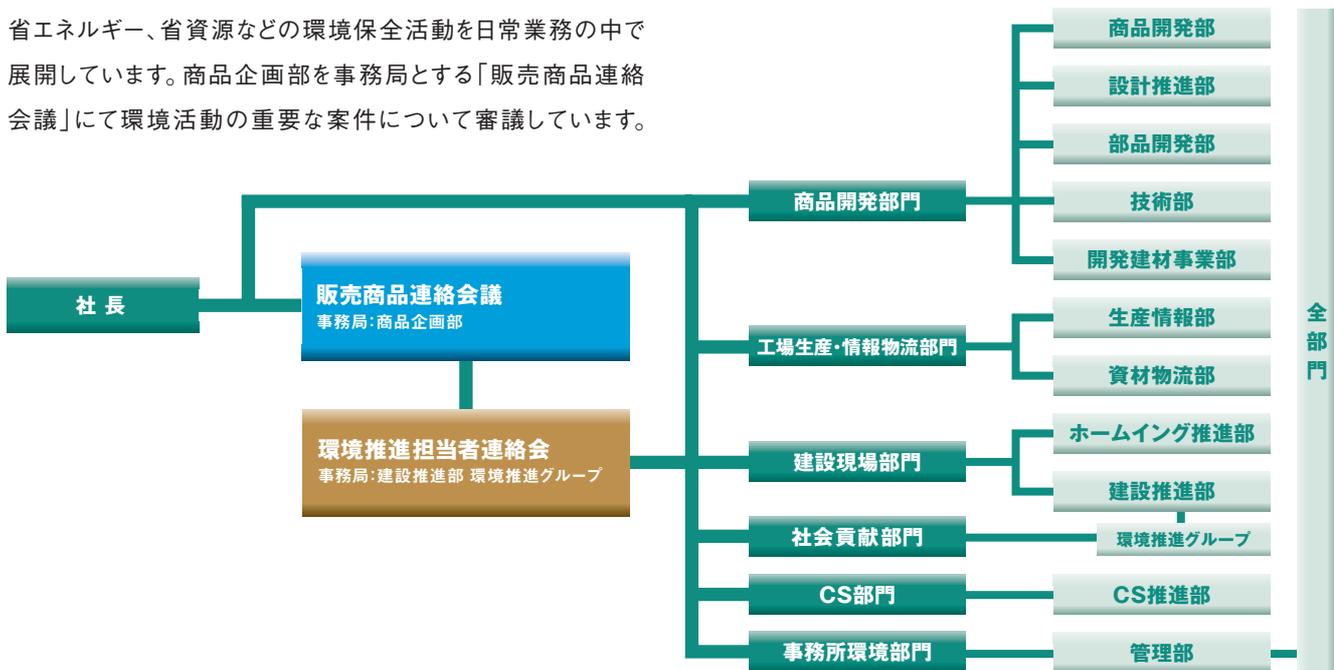
環境方針

ミサワホーム株式会社は、ミサワホームグループ環境理念を踏まえ、商品開発及び事務所内活動を以下の方針に基づいて行います。

- 1 当社の活動、製品、サービスにかかわる環境影響を的確に把握しこの環境方針達成のため、中期的な環境目的と年度環境目標を設定し、定期的な見直しを行うことで環境管理システムの継続的改善を図ります。
- 2 商品開発において、設計、開発、購買、生産、流通、使用(居住)、解体、廃棄の各段階で、環境負荷低減を考慮した住まいづくりを行います。
- 3 事業所内活動において、省資源、省エネルギー、廃棄物の削減に努めます。
- 4 当社の活動、製品、サービスにかかわる環境関連の法律及び当社が同意する要求事項を厳守します。
- 5 環境保全に関するイベント等への参画及び研究活動への協力支援、並びにこの環境方針や当社の環境推進活動をインターネット等を通じて公開することなどで、広く社会とのコミュニケーションを図ります。
- 6 全従業員に環境教育を行い、この環境方針を理解させるとともに地球規模の視野に立った環境保全活動に貢献できる人材を育成します。

■環境活動の推進体制

生産、輸送、建設、使用、推進にいたるまでの廃棄物問題や省エネルギー、省資源などの環境保全活動を日常業務の中で展開しています。商品企画部を事務局とする「販売商品連絡会議」にて環境活動の重要な案件について審議しています。



■ISO14001 認証取得

ミサワホームではグループを挙げてISO14001認証取得を目指し、ISO導入説明会や認証取得支援など行ってきました。そして1997年、(株)ミサワテクノ・ミサワホーム松本工場が、環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の認証を業界で初めて取得。現在、ミサワホーム本社・本部、13工場及び関連企業2社が所得しています。

ISO14001認証取得工場・会社一覧

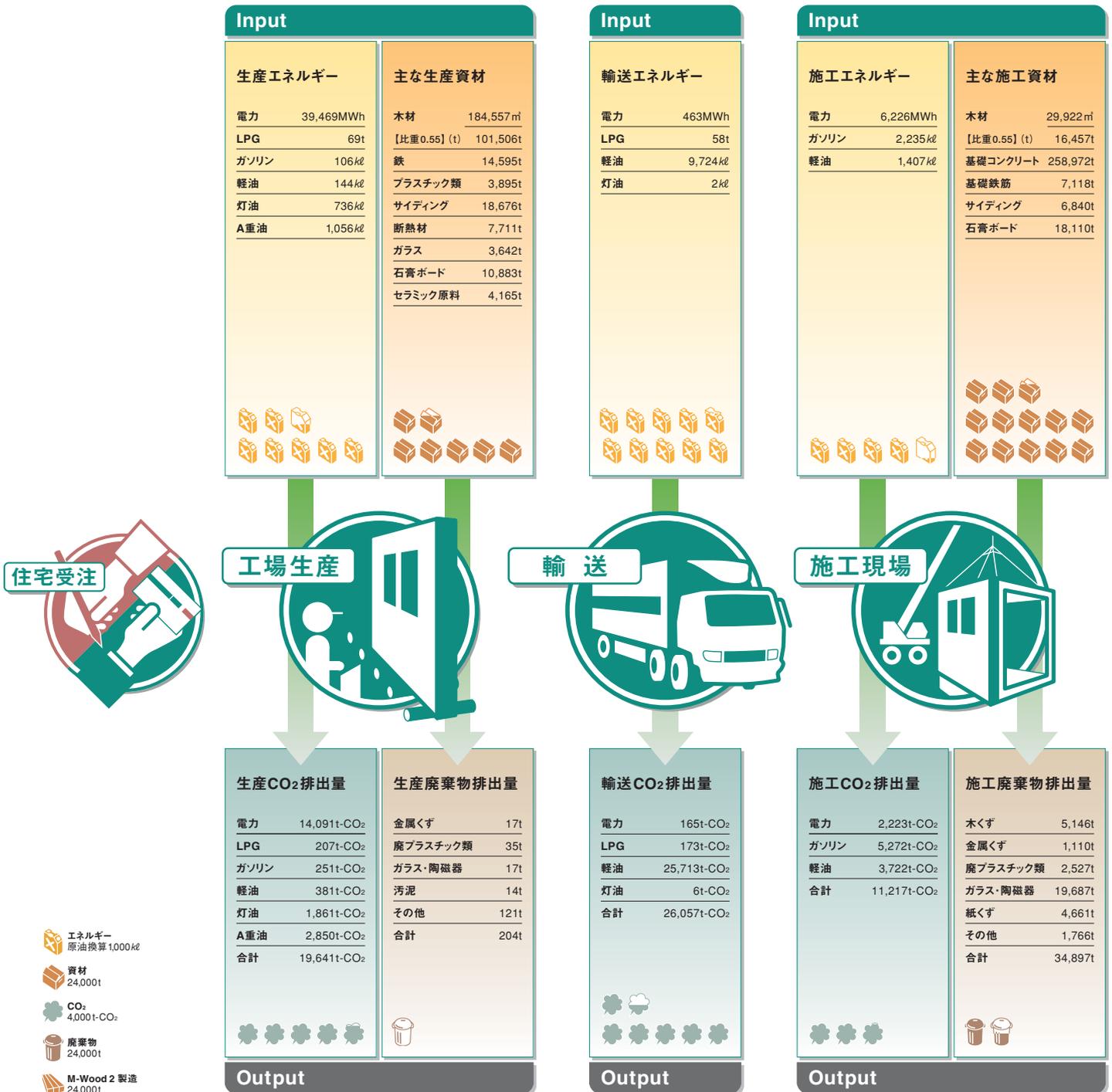
工場・会社	取得年月日	工場・会社	取得年月日		
木質工場	松本工場	1997年6月13日	木質工場	磯原工場	2001年4月20日
	福岡工場	2000年7月1日		島根工場	2001年6月21日
	静岡工場	2000年8月1日		札幌工場	2001年8月23日
	沼田工場	2000年12月1日	セラミック工場	岡山工場	2003年5月31日
	岩手工場	2001年1月1日		名古屋工場	2001年3月31日
	梓川工場	2001年2月1日	本社・本部・LACビル	商品開発を含む全部門	1999年2月4日
	福井工場	2001年3月24日		関連会社	ミサワホームフィンランド
	山梨工場	2001年3月24日	ミサワホームインク多摩		2006年12月9日



ミサワホームの環境への関わり

ミサワホームでは2006年度の販売実績に基づいて環境影響を的確に把握し、効果的に環境負荷を低減させるため、ライフサイクルごとの資材とエネルギーのインプット及び廃棄物や温室効果ガス(CO₂)等のアウトプットを「マテリアル&エネルギーフロー」としてまとめています。

2006年度 マテリアル&エネルギーフロー図

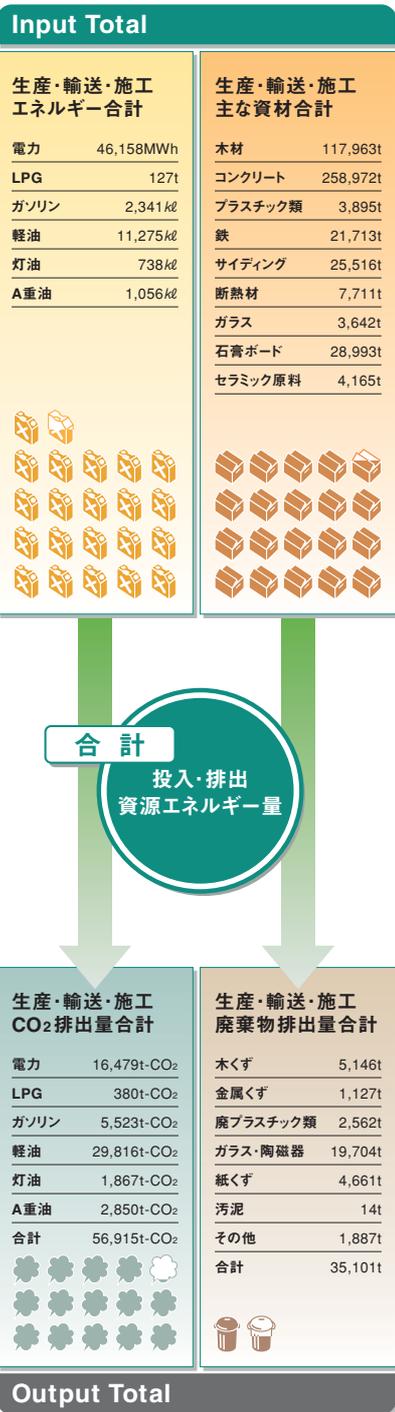


【算出根拠】

※CO₂排出量:各種エネルギーからCO₂への換算は社団法人プレハブ建築協会「エコアクション21」のCO₂排出量原単位による

■工場生産	資材、エネルギー、廃棄物、CO ₂ 排出量	木質工場14、セラミック工場2工場 計16工場の合計
■輸送	エネルギー	車輛(軽油)分(総走行距離×燃費)、輸送基地分の合計
■施工現場	電気	使用電気量(kWh/日・棟)×平均工期×施工棟数
	軽油	建機移動時(ℓ/h)×燃費(ℓ/棟)×施工棟数 建機平均移動距離(km/棟)×燃費(km/ℓ)×施工棟数

■施工現場	ガソリン	平均職人投入数(人工/棟)×平均移動距離(km/棟)×施工棟数
	廃棄物	自社調査による平均廃棄物排出量×施工棟数
■居住	CO ₂ 排出量	1世帯あたりのCO ₂ 排出量(約3,600kg-CO ₂)×施工棟数 「平成19年度版 環境・循環型社会白書」[国勢調査]データに基づき推計
■解体	廃棄物	「住宅・土地統計調査」[木造建築物解体工事の現場](社団法人全国解体工事業団体連合会)データに基づき推計



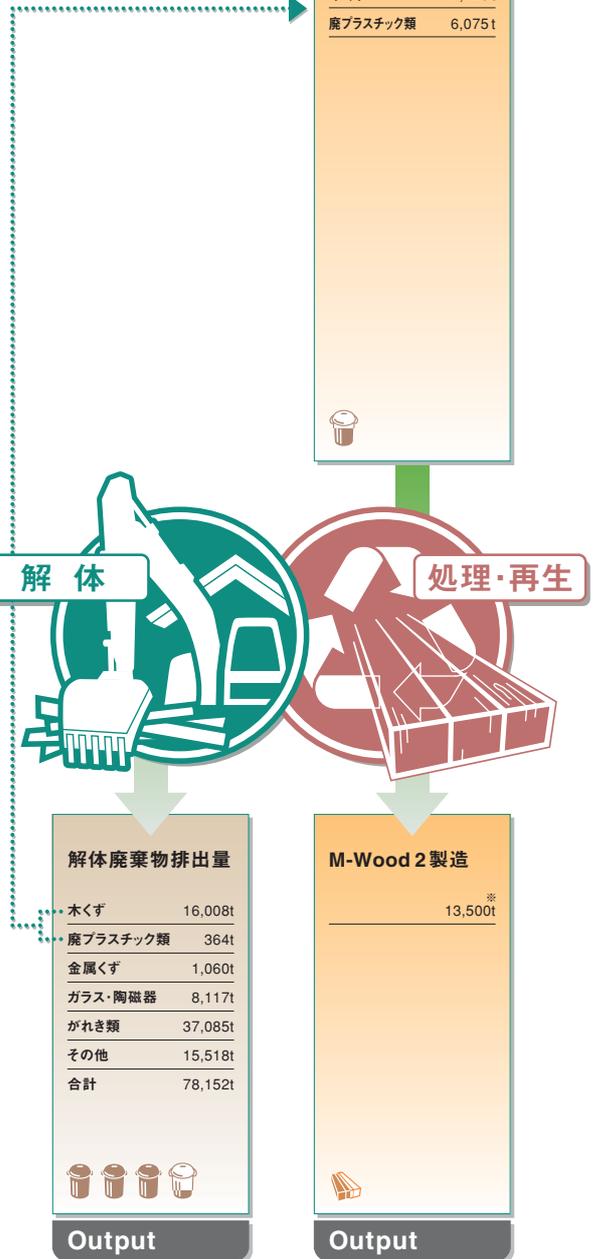
【年間居住段階CO₂削減】 11,735 t-CO₂

ミサワホームが2006年度に販売した住まいにおいて、太陽光発電システム、24時間フロアセントラル熱交換換気システムの導入や、IHコンロ、高性能ペアガラスなどの高効率・省エネルギー機器を利用した環境配慮設計により年間居住段階CO₂、約38,127tのうち11,735tを削減できた計算となります。

参考:一般廃棄物排出量1,584Kg(4人家族)
(1,021Kg/世帯) CO₂排出量 5,448Kg-CO₂
(4人家族)(3,513Kg-CO₂/世帯) (平成19年度版 環境・循環型社会白書、国勢調査)



M-Wood2 プラント (プラント数:5基)



※プラントの製造能力に基づく社内基準による



2006年度環境活動の目標と実績

ミサワホームでは環境マネジメントシステムのもと、さまざまな環境活動を展開しています。

「SUSTAINBLE 2010」(2006～2010年)に基づき、環境目的達成に向けての環境目標を年度ごとに掲げています。

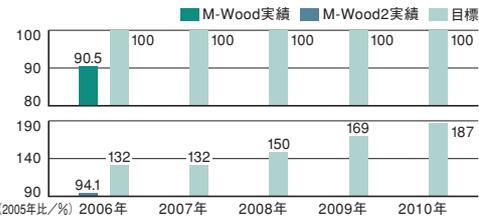
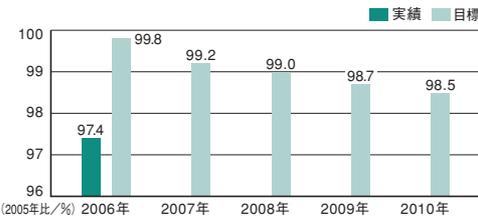
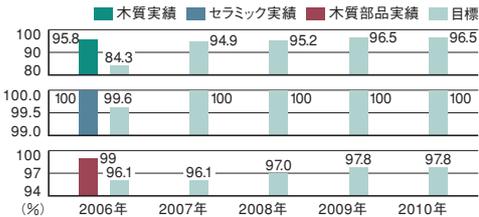
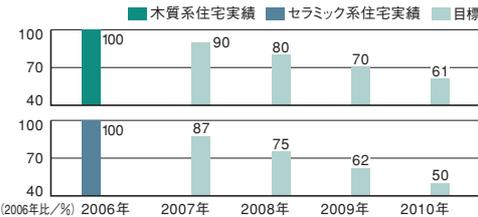
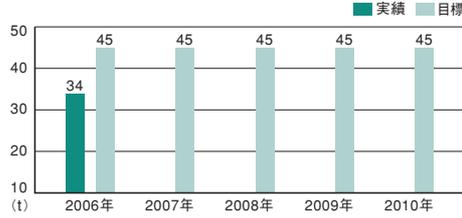
このページではミサワホームの環境活動をカテゴリー別に、2006年度の環境目標に対する実績と自己評価を掲載しています。

CO₂削減

環境目的	① 新規に供給する住宅のライフサイクル[*]におけるCO₂排出量を2010年までに1990年(4,251kg-CO₂/棟・年)比20%削減する。(※30年間で評価)																																					
環境目標	■ 次世代省エネ基準以上(品確法4等級相当以上)の住宅の普及率を高める <table border="1"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>実績 (%)</th> <th>目標 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2006年</td> <td>84</td> <td>82</td> </tr> <tr> <td>2007年</td> <td>-</td> <td>86</td> </tr> <tr> <td>2008年</td> <td>-</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>2009年</td> <td>-</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>2010年</td> <td>-</td> <td>90</td> </tr> </tbody> </table>	年	実績 (%)	目標 (%)	2006年	84	82	2007年	-	86	2008年	-	90	2009年	-	90	2010年	-	90	■ 太陽光発電住宅の普及率を高める <table border="1"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>実績 (%)</th> <th>目標 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2006年</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>2007年</td> <td>-</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>2008年</td> <td>-</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>2009年</td> <td>-</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>2010年</td> <td>-</td> <td>15</td> </tr> </tbody> </table>	年	実績 (%)	目標 (%)	2006年	6	6	2007年	-	8	2008年	-	10	2009年	-	12	2010年	-	15
	年	実績 (%)	目標 (%)																																			
	2006年	84	82																																			
	2007年	-	86																																			
2008年	-	90																																				
2009年	-	90																																				
2010年	-	90																																				
年	実績 (%)	目標 (%)																																				
2006年	6	6																																				
2007年	-	8																																				
2008年	-	10																																				
2009年	-	12																																				
2010年	-	15																																				
■ 高効率給湯器の普及率を高める <table border="1"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>実績 (%)</th> <th>目標 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2006年</td> <td>31</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>2007年</td> <td>-</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>2008年</td> <td>-</td> <td>49</td> </tr> <tr> <td>2009年</td> <td>-</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>2010年</td> <td>-</td> <td>60</td> </tr> </tbody> </table>	年	実績 (%)	目標 (%)	2006年	31	31	2007年	-	40	2008年	-	49	2009年	-	55	2010年	-	60	■ エネルギー効率の高い設備機器を採用しCO₂排出量を削減する <table border="1"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>実績 (kg-CO₂/棟)</th> <th>目標 (kg-CO₂/棟)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2006年</td> <td>284</td> <td>210</td> </tr> <tr> <td>2007年</td> <td>-</td> <td>259</td> </tr> <tr> <td>2008年</td> <td>-</td> <td>293</td> </tr> <tr> <td>2009年</td> <td>-</td> <td>331</td> </tr> <tr> <td>2010年</td> <td>-</td> <td>383</td> </tr> </tbody> </table>	年	実績 (kg-CO ₂ /棟)	目標 (kg-CO ₂ /棟)	2006年	284	210	2007年	-	259	2008年	-	293	2009年	-	331	2010年	-	383	
年	実績 (%)	目標 (%)																																				
2006年	31	31																																				
2007年	-	40																																				
2008年	-	49																																				
2009年	-	55																																				
2010年	-	60																																				
年	実績 (kg-CO ₂ /棟)	目標 (kg-CO ₂ /棟)																																				
2006年	284	210																																				
2007年	-	259																																				
2008年	-	293																																				
2009年	-	331																																				
2010年	-	383																																				
■ 工場生産に伴う売上高原単位当たりCO₂排出量を削減する <table border="1"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>実績 (%)</th> <th>目標 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2006年</td> <td>90.2</td> <td>74.7</td> </tr> <tr> <td>2007年</td> <td>-</td> <td>99.6</td> </tr> <tr> <td>2008年</td> <td>-</td> <td>99.2</td> </tr> <tr> <td>2009年</td> <td>-</td> <td>98.8</td> </tr> <tr> <td>2010年</td> <td>-</td> <td>98.4</td> </tr> </tbody> </table>	年	実績 (%)	目標 (%)	2006年	90.2	74.7	2007年	-	99.6	2008年	-	99.2	2009年	-	98.8	2010年	-	98.4	■ 輸送に伴う棟当たりCO₂排出量を削減する <table border="1"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>実績 (%)</th> <th>目標 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2006年</td> <td>93.8</td> <td>94.7</td> </tr> <tr> <td>2007年</td> <td>-</td> <td>99</td> </tr> <tr> <td>2008年</td> <td>-</td> <td>93</td> </tr> <tr> <td>2009年</td> <td>-</td> <td>92</td> </tr> <tr> <td>2010年</td> <td>-</td> <td>91</td> </tr> </tbody> </table>	年	実績 (%)	目標 (%)	2006年	93.8	94.7	2007年	-	99	2008年	-	93	2009年	-	92	2010年	-	91	
年	実績 (%)	目標 (%)																																				
2006年	90.2	74.7																																				
2007年	-	99.6																																				
2008年	-	99.2																																				
2009年	-	98.8																																				
2010年	-	98.4																																				
年	実績 (%)	目標 (%)																																				
2006年	93.8	94.7																																				
2007年	-	99																																				
2008年	-	93																																				
2009年	-	92																																				
2010年	-	91																																				
自己評価	各年度環境目標の達成により、2006年度環境目的数値4,123kg-CO ₂ /棟(1990年比3%減)に対し4,066kg-CO ₂ /棟(同4.3%減)となり、計画を達成しました。																																					

環境目的	② 本社・本部などにおける事務所活動によるCO₂排出量は、2005年度実績を維持する。																			
環境目標	■ 事務所活動に伴うCO₂排出量を維持する <table border="1"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>実績 (%)</th> <th>目標 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2006年</td> <td>96.3</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>2007年</td> <td>-</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>2008年</td> <td>-</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>2009年</td> <td>-</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>2010年</td> <td>-</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>		年	実績 (%)	目標 (%)	2006年	96.3	100	2007年	-	100	2008年	-	100	2009年	-	100	2010年	-	100
年	実績 (%)	目標 (%)																		
2006年	96.3	100																		
2007年	-	100																		
2008年	-	100																		
2009年	-	100																		
2010年	-	100																		
自己評価	「チーム・マイナス6%」参加企業として環境活動内容を各個人が理解し、事務所内活動における節電等省エネ活動に努めた結果、目標が達成できました。																			

資源有効活用／ゼロ・エミッション

環境目的	③ 地球環境における資源の有効活用を図るため、環境配慮素材の活用や建物の長寿命化・長期耐久化を維持する。	
環境目標	■ M-Wood／M-Wood2使用量を拡大する 	■ 棟当たり木材使用量を削減する 
自己評価	 棟当たりの木材使用量は、各工場のゼロ・エミッション活動の推進や木材の歩留まり等の向上により目標が達成できました。M-Wood／M-Wood2の使用量は未達に終わりました。	
環境目的	④ 2010年度までに工場・現場におけるゼロ・エミッション化を達成する。	
環境目標	■ 工場生産から排出される廃棄物のリサイクル率を向上させる 	■ 建築現場から発生する廃棄物を削減する 
自己評価	 工場リサイクル率は計画を上回る結果で、セラミック系工場では100%達成。現場の廃棄物削減については、現場調査により2007年度以降の目標値を設定しました。	
環境目的	⑤ 本社の事業所活動から発生する廃棄物の排出量は、2005年度実績を維持する。	
環境目標	■ 事務所系廃棄物排出量を維持する 	
自己評価	 事務所より排出される廃棄物の分別の徹底や、部品等のサンプル品の再利用の推進等により、廃棄物の排出量が大幅に改善されました。	

居住環境

環境目的	⑥ 新規供給住宅について室内環境原因物質を削減し、健康に配慮した住宅を供給する。
主な取り組み	生産段階で使用される有害化学物質の使用量を集計し、その集計により2007年度以降に使用量を削減する有害化学物質として、鉛・ジクロロメタンを特定しました。 さまざまな化学物質使用規制を踏まえ、更なる室内環境汚染物質の削減に努めています。
環境目的	⑦ 住宅生産活動の過程で使用する有害化学物質について極力使用しない技術開発に努めるとともに、その管理を徹底する。
主な取り組み	PRTR法に基づく調査・報告を継続的に実施し、今年度は7工場延べ10物質の届出を行いました。2006年度のPRTRの集計結果につきましてはP41をご覧ください。

企業活動

環境目的	⑧ 人と自然が共生し、資産価値の高いまちづくりを促進する。
主な取り組み	住宅地計画において、環境に配慮した宅地造成、住宅設計及び造園設計を総合的に監修し、まちづくりの啓蒙活動として研修を実施しました。
環境目的	⑨ 市民レベルの環境行動などへの協力とともに、当社独自の取り組みなどを通して、環境問題の改善に資する社会的貢献に努める。
主な取り組み	社団法人プレハブ建築協会の環境分科会など、外部団体の環境関連委員会に積極的に参加しています。また、今年から販売会社の東北ミサワホームが宮城県にて植林活動を開始しています。

「MISAWAオーナーの森 宮城」での活動

東北ミサワホーム株式会社は2006年4月、宮城県の「わたしたちの森づくり事業」に賛同し、県有林5.5haを借り受け、ネーミングライツ（命名権）を取得。名前を「MISAWAオーナーの森 宮城」としました。ミサワホームにお住まいの皆さまの憩いの場所として開放し、ご家族で参加できる体験型イベントを実施。また、ミサワホーム社員やその家族がボランティアで間伐や遊歩道整備などを行い、森林保護に取り組んでいます。



社員・家族による植林活動



地球環境と共に

ミサワホームグループは、企業活動そのものが環境保全活動となるよう努力します。

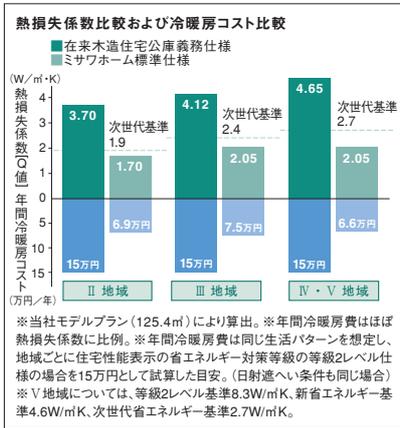
CO₂削減 ミサワホームの企業活動によるCO₂排出量を、2010年までに1990年比20%削減することをめざしています。

chapter.1

省エネルギー住宅によるCO₂削減

■次世代省エネルギーをしのぐ室内環境

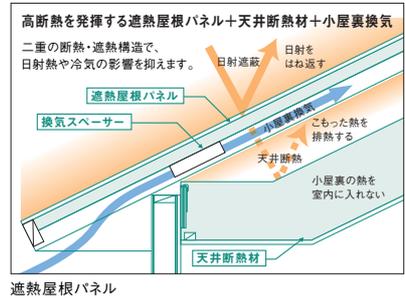
2005年発効の京都議定書では、2012年までに温室効果ガスを1990年比で6%削減することが定められています。ミサワホームでは、温室効果ガスの大部分を占めるといわれるCO₂排出量を、2010年までに20%削減する目標を定め、さまざまな活動を行ってきました。その中核となる次世代省エネルギー基準は、2004年に戸建住宅標準化。2006



年度の販売実績のうち、84%が次世代省エネ基準の住まいでした。今後さらに、全棟標準化の実現に努めていきます。

■すぐれた断熱性能で省エネルギー

木質パネル接着工法により、通常仕様でも高断熱・高气密のミサワホームの住まいですが、「遮熱屋根パネル」や「200mm厚天井断熱材」、「高断熱木質パネル」などの利用で、さらなる高断熱設計も実現できます。邸別のエネルギー消費シミュレーションソフトを使用して、住まいの省エネルギー性能を体験することも可能です。



chapter.2

創エネルギー住宅によるCO₂削減

■ミサワホームのゼロ・エネルギー住宅

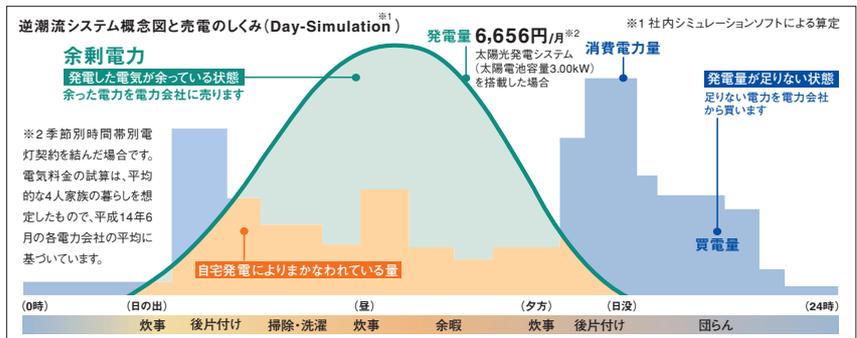
ミサワホームでは、高断熱・高气密設計による省エネルギー、太陽光発電システムによる創エネルギー、さらにオール電化等による高効率化を融合することで、1998年、生活エネルギーを100%自給できる世界初のゼロ・エネルギー住宅「HYBRID-Z」や「ミサワホームZ」を実現。現在は「VikiCourt」「SMARTSTYLE」などを中心に、太陽光発電システムを搭載した住まいのさらなる普及に努めています。

■オール電化でさらにエコロジー

ミサワホームでは、空調、料理、給湯にいたるまで、すべての機器を電化した「オール電化」のライフスタイルをご提案しています。太陽光発電を最大限に活用し、クリーンな電気を一元的に供給。4人家族が快適な生活を平均的に送った場合の必要エネルギーをすべてまかなうことができます。また、基本的に火を使わず暮らせるので、燃焼ガスの発生がなく、お年寄りやお子さまにも安心です。



CENTURY Viki Court





chapter.3 「ECO・微気候デザイン」による省エネルギー

■「ECO・微気候デザイン」とは

「家のつくりようは夏を旨とすべし」と吉田兼好が「徒然草」に書いたように、日本の伝統住宅には高温多湿の夏をしのぎやすくする工夫が随所にありました。自然の快適さをいかして心地よく暮らす“先人の知恵”を、現代の“先進の技術・デザイン”で再現するのが「ECO・微気候デザイン」です。エアコンなどの使用を抑え、省エネルギーで環境にもやさしく暮らせます。「微気候」とは、住まいとその周辺の局地的な気候のこと。地域の気候特性や、敷地における風の通り道、日照条件、植物分布などを把握し、年間を通して快適な住まいをデザインします。



「ECO・微気候デザイン」を採用した「HYBRID BLANC」

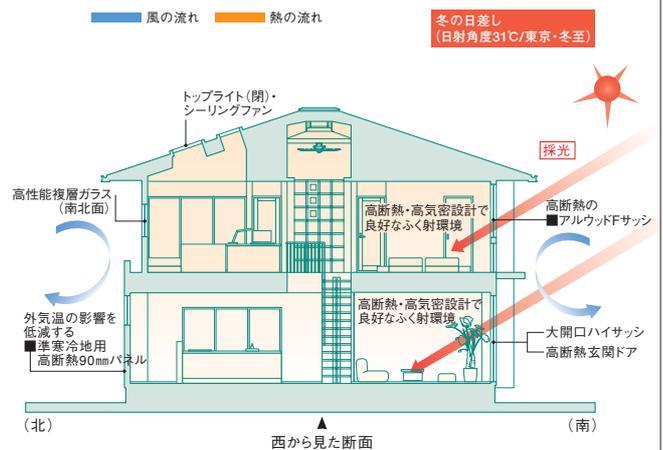
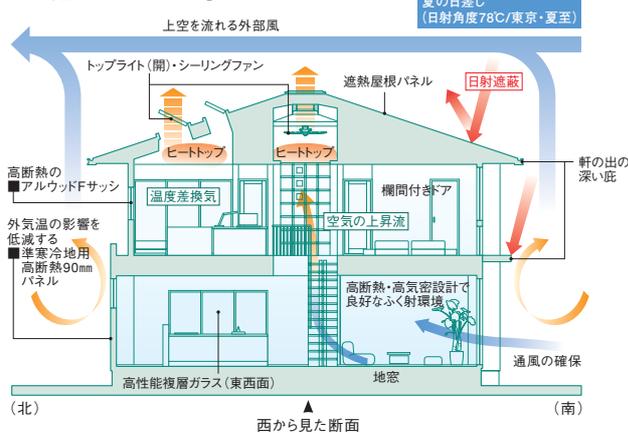
■夏を涼しく暮らす「ECO・微気候デザイン」

夏の日差しは、「深い庇」が効果的にカット。高断熱の「遮熱屋根パネル」などが外気温の影響を緩和します。地域の風向きに合わせて開口部を設計し、風通しのいい住まいをデザイン。「地窓」から涼風を採り入れ、上方の「トップライト」から室内にこもる熱気を効果的に排出します。

■冬を暖かく暮らす「ECO・微気候デザイン」

冬を暖かく暮らすには、住まいの断熱性能を高めてふく射環境を良くし、すき間風を防ぐことが大切です。そこで、大開口のハイサッシから日差しをたっぷり採り入れて室内を暖め、独自の高断熱・高气密設計や高性能複層ガラスにより、暖かい空気の熱を室内にしっかりとキープ。北海道で使用される「高断熱玄関ドア」もご提案しています。

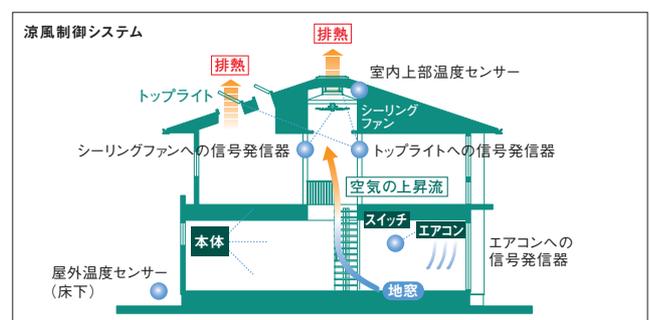
夏と冬の「ECO・微気候デザイン」



chapter.4 「涼風制御システム」による省エネルギー

■無風時にも風が流れる「涼風制御システム」

夏の日差しをカットし、冬は招き入れる「深い庇」などの“先人の知恵”と、高断熱・高遮熱タイプを使い分けできる「高性能複層ガラス」などの“先進の技術・デザイン”の両方を融合し、さらに「涼風制御システム」により天井付近にこもる熱気を抜きながら自然の風を取り込み、エアコンを補助的に運転させることで、運転時間を低減させます。通風の期待できない都市部などで、とくに効果的なシステムです。



室温・外気温を感知し、トップライトの開閉やシーリングファン、エアコンを自動運転します。

資源の有効活用 地球資源を有効活用する新素材の発明や、環境に配慮した木材使用を推進しています。

chapter.1 資源を有効活用する独自の素材開発

■多機能素材「ニューセラミック」

住まいづくりにおいて、限られた地球資源への配慮は常識です。その有効活用とともに大切なのは、環境への負荷の少ない資源を選ぶこと。ニュー



ニューセラミック外壁の住まい

セラミックは、自然界に豊富に存在する珪石と石灰石が主原料。住まいづくりに必要な断熱性、遮音性、耐久性、耐火性などを高レベルで満たす、理想的な外壁材です。

■新・木素材「M-Wood」

ミサワホームが、木の製材時に出る端材などを再利用して開発した木素材「M-Wood」。見た目や素材感は天然の木そのものでありながら、水や湿気に強く、反りやねじれない安定した品質で、住宅のインテリアだけでなく、ホテル浴室や店舗・車両内装材としても活躍しています。また、2005年、廃棄物処理法の広域認定制度に基づく環境

大臣認定の取得で、加工メーカーの端材を自社の物流便を利用して回収し、輸送エネルギーやCO₂排出削減を含む効率的なリサイクルを実現。今後、さらなる完全循環型システムを構築し、「M-Wood」の廃棄物ゼロ化を目指します。

■100%リサイクル素材「M-Wood2」

木質系廃材と廃プラスチックを再利用したリサイクル木素材「M-Wood2」は、住宅だけでなく中部国際空港や2005年の愛知万博のデッキなど、環境を重要視する大型プロジェクトにも数多く採用。また、(財)日本環境協会からエコマーク認定を取得し、民間企業の優良技術として国土交通省の新技术情報提供システムにも登録されています。



中部国際空港の歓迎デッキ

写真提供:中部国際空港株式会社

chapter.2 地球環境に配慮した木材生産

■環境先進国フィンランドでの調達・生産

フィンランドは、森林伐採量を厳しく制限している環境先進国。ミサワホーム・フィンランド工場では、伐採した木をまるごとムダなく活用するシステムを構築しています。丸太の製材過程で発生する樹皮は隣接する火力発電所の燃料に、チップはパルプの原料に利用するなど100%利用し、森林資源を有効活用。こう

した取り組みにより2006年、国際的な認証プログラムPEFCのCoC認証(流通・加工)を取得しました。



製材した木材を含水率15%以下に人工乾燥

■中国で環境負荷の少ない積層合板を生産

中国では進行する砂漠化抑止のため、平原緑化政策を推進。中国のミサワホーム工場では、緑化政策によって植林された木を使用しています。世界三大植林のひとつにも数えられる、環境負荷の少ない樹種です。この工場はLVL(単板積層材)の生産拠点として、JAS認定を取得しています。



中国・臨沂(リンイ)のミサワホーム工場



製造工程



健康配慮

ミサワホームは独自のデータベースにより化学物質の削減を推進し、人々の健康に配慮します。

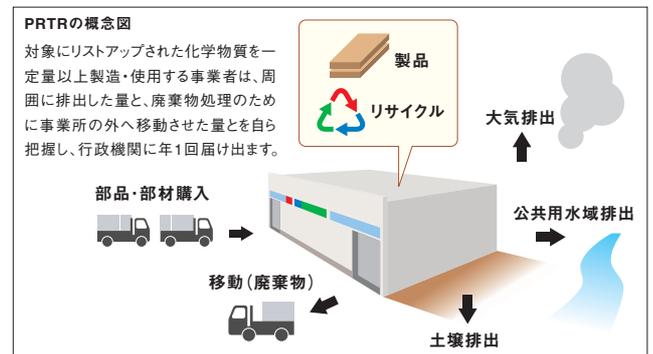
chapter.1

有害化学物質削減の推進

■有害化学物質管理 (PRTR) と削減

ミサワホームでは2006年度、7工場延べ10物質の届出を行いました。新規の部品部材のうち、接着剤・塗料などの製品安全データを基に独自のデータベース化をPRTR法施行に合わせて構築し、現在もシステムの集計精度を高める取り組みを続けています。ジクロロメタンは、主に部品生産でのラッピング用接着剤成分として使用していましたが、一部の部品生産の接着剤変更などを行い、使用量を前年比で26.5%削減できました。環境5ヵ年活動計画「SUSTAINABLE2010」では、2006年度優先取組物質としてジクロロメタンと鉛を指定し、さらなる削減に努めます。

※PRTR (Pollutant Release and Transfer Register) は、指定化学物質がどの発生源からどれくらい周囲に排出されたか、また廃棄物に含まれて外に出されたかというデータを把握・集計し、公表する仕組みです。2000年7月に「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」(PRTR法) が施行され、毎年1回の届出を行っています。



PRTR調査結果 (2006年度分全体集計)

化学物質	毒性ランク	用途	総取扱量(トン)	排出量・移動量(トン)				消費(トン)	リサイクル(トン)
				大気	水質	土壌	移動(廃棄物)		
キシレン	第1種	塗料 他	75.85	75.11	0.00	0.00	0.74	0.00	0.00
メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート	第2種	塗料	43.60	0.00	0.00	0.00	3.91	39.69	0.00
ジクロロメタン	第1種	ラッピング用接着剤	37.14	36.77	0.00	0.00	0.37	0.00	0.00
鉛及びその化合物	第1種	樹脂添加剤	21.03	0.00	0.00	0.00	1.89	19.14	0.00
トルエン	第1種	塗料 他	20.68	20.48	0.00	0.00	0.20	0.00	0.00
フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	第1種	塗料可塑剤	15.84	0.00	0.00	0.00	1.43	14.41	0.00
グリオキサール	第1種	接着剤原材料	9.29	0.00	0.00	0.00	0.97	8.32	0.00
エチルベンゼン	第1種	塗料 他	7.09	7.02	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00
フタル酸ジ-n-ブチル	第1種	塗料可塑剤	4.57	0.00	0.00	0.00	0.41	4.16	0.00
酢酸2-エトキシエチル	第1種	造作材等塗料	4.34	4.30	0.00	0.00	0.04	0.00	0.00
ビスフェノールA型エポキシ樹脂	第1種	塗料・接着剤	3.87	0.00	0.00	0.00	0.32	3.55	0.00
ヒドラジン	第1種	ボイラー清缶剤	0.54	0.00	0.54	0.00	0.00	0.00	0.00
ノニルフェノール	第1種	刃物洗浄剤 塗料	0.30	0.00	0.00	0.00	0.01	0.29	0.00
スチレン	第1種	造作材塗料	0.20	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
フェノール	第1種	役物接着剤	0.16	0.00	0.00	0.00	0.00	0.16	0.00
クロム酸亜鉛	第1種	防錆剤下塗塗料	0.06	0.00	0.00	0.00	0.01	0.05	0.00
メタクリル酸メチル	第1種	部品用接着剤	0.04	0.00	0.00	0.00	0.00	0.04	0.00
1,3,5-トリメチルベンゼン	第1種	塗料	0.03	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ポリ(オキシエチレン)=ノニルフェニルエーテル	第1種	塗料界面活性剤	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00
エチレングリコール	第1種	工場床塗料	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00
メチレンビス(4,1-シクロヘキシル)=ジイソシアネート	第1種	ラッピング用接着剤	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00
四酸化三鉛	特定1種	防錆剤下塗塗料	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00
ポリ(オキシエチレン)=オクチルフェニルエーテル	第1種	塗料界面活性剤	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00
6価クロム化合物	特定1種	床、設備用塗料	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00
合計			244.72	143.91	0.54	0.00	10.37	89.90	0.00
ダイオキシン類	特定1種	焼却炉	42.14 [※]	41.66 [※]	0.00	0.00	0.48 [※]	0.00	0.00

※単位:mg-TEQ

サイトレポート ミサワホームは、生産工場の環境基準の遵守、環境負荷の把握を徹底しています。

chapter.1 全国生産工場の環境パフォーマンス

■工場における2006年度環境負荷の把握

ミサワホームでは全国に16ヵ所ある生産工場について、化学物質の移動量や排出量を定期的に調査。大気、水質等の環境基準の遵守や、環境負荷の把握を徹底して行っています。各工場では生産効率と品質の向上を図るため、独自の生産システム(MPS)を導入し、常に改善を進めています。また、全工場に環境マネジメントシステム※(EMS)を導入しています。

※ISO14001認証工場についてはP32参照



ミサワホーム岩手工場

〒028-7303 岩手県八幡平市柏台1-4

従業員数(2007.3.31時点):80名 主な住宅生産部材:木質住宅用パネル



ゼロ・エミッション認定年月:2007年8月

省エネルギー(地球温暖化防止)		リサイクル			
原油換算(キロリットル)	t-CO ₂	再資源化率	総発生量(トン)	最終処分量(トン)	再資源化量(トン)
534	776	88%	250	29	221
PRTR(トン)					
総取扱量	大気	水質	土壌	移動	消費
5.71	0.27	0.05	0.00	0.49	4.90

ミサワホーム梓川工場

〒390-1702 長野県松本市梓川梓5055

従業員数(2007.3.31時点):109名 主な住宅生産部材:木質住宅用部材・部品



ゼロ・エミッション認定年月:2007年3月

省エネルギー(地球温暖化防止)		リサイクル			
原油換算(キロリットル)	t-CO ₂	再資源化率	総発生量(トン)	最終処分量(トン)	再資源化量(トン)
1,831	2,745	99.7%	339	1	338
PRTR(トン)					
総取扱量	大気	水質	土壌	移動	消費
45.21	8.23	0.00	0.00	3.41	33.57

ミサワホーム松本工場

〒390-1131 長野県松本市大字今井松本道7110-3

従業員数(2007.3.31時点):91名 主な住宅生産部材:木質住宅用パネル



ゼロ・エミッション認定年月:2005年9月

省エネルギー(地球温暖化防止)		リサイクル			
原油換算(キロリットル)	t-CO ₂	再資源化率	総発生量(トン)	最終処分量(トン)	再資源化量(トン)
829	1,185	100%	253	0	253
PRTR(トン)					
総取扱量	大気	水質	土壌	移動	消費
3.33	0.42	0.08	0.00	0.26	2.57

ミサワホーム沼田工場

〒378-0002 群馬県沼田市横塚町397

従業員数(2007.3.31時点):181名 主な住宅生産部材:木質住宅用パネル



ゼロ・エミッション認定年月:2006年8月

省エネルギー(地球温暖化防止)		リサイクル			
原油換算(キロリットル)	t-CO ₂	再資源化率	総発生量(トン)	最終処分量(トン)	再資源化量(トン)
1,335	1,937	100%	663	0	663
PRTR(トン)					
総取扱量	大気	水質	土壌	移動	消費
23.07	0.42	0.10	0.00	2.05	20.50



ミサワホーム静岡工場



ゼロ・エミッション認定年月:2005年8月

〒428-0019 静岡県島田市志戸呂726-2

従業員数(2007.3.31時点):139名 主な住宅生産部材:木質住宅用部材・部品

省エネルギー(地球温暖化防止)		リサイクル			
原油換算(キロリットル)	t-CO ₂	再資源化率	総発生量(トン)	最終処分量(トン)	再資源化量(トン)
845	1,223	100%	403	0	403
PRTR(トン)					
総取扱量	大気	水質	土壌	移動	消費
9.83	8.34	0.00	0.00	0.21	1.28

ミサワホーム岡山工場



ゼロ・エミッション認定年月:2006年11月

〒705-0012 岡山県備前市香登本700-1

従業員数(2007.3.31時点):137名 主な住宅生産部材:木質住宅用パネル

省エネルギー(地球温暖化防止)		リサイクル			
原油換算(キロリットル)	t-CO ₂	再資源化率	総発生量(トン)	最終処分量(トン)	再資源化量(トン)
1,009	1,476	98%	608	11	597
PRTR(トン)					
総取扱量	大気	水質	土壌	移動	消費
4.50	0.40	0.00	0.00	0.35	3.75

ミサワホーム福岡工場



ゼロ・エミッション認定年月:2006年1月

〒807-1312 福岡県鞍手郡鞍手町大字中山1-62

従業員数(2007.3.31時点):101名 主な住宅生産部材:木質住宅用パネル

省エネルギー(地球温暖化防止)		リサイクル			
原油換算(キロリットル)	t-CO ₂	再資源化率	総発生量(トン)	最終処分量(トン)	再資源化量(トン)
690	987	100%	568	0	568
PRTR(トン)					
総取扱量	大気	水質	土壌	移動	消費
9.10	6.29	0.03	0.00	0.30	2.48

ミサワホーム駒ヶ根工場



ゼロ・エミッション認定年月:2007年4月

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15-513

従業員数(2007.3.31時点):54名 主な住宅生産部材:木質住宅用部材・部品

省エネルギー(地球温暖化防止)		リサイクル			
原油換算(キロリットル)	t-CO ₂	再資源化率	総発生量(トン)	最終処分量(トン)	再資源化量(トン)
340	557	94%	129	8	121
PRTR(トン)					
総取扱量	大気	水質	土壌	移動	消費
12.11	11.98	0.00	0.00	0.12	0.01

ミサワホーム名古屋工場



ゼロ・エミッション認定年月:2006年7月

〒483-8052 愛知県江南市前野町東2-1

従業員数(2007.3.31時点):283名 主な住宅生産部材:ハイブリッド住宅用ユニット、外壁材

省エネルギー(地球温暖化防止)		リサイクル			
原油換算(キロリットル)	t-CO ₂	再資源化率	総発生量(トン)	最終処分量(トン)	再資源化量(トン)
2,426	4,787	100%	3,146	0	3,146
PRTR(トン)					
総取扱量	大気	水質	土壌	移動	消費
100.46	98.93	0.00	0.00	1.04	0.49

ミサワホーム大井川工場



ゼロ・エミッション認定年月:2006年12月

〒421-0302 静岡県榛原郡吉田町川尻1383-1

従業員数(2007.3.31時点):32名 主な住宅生産部材:ハイブリッド住宅用部材・部品

省エネルギー(地球温暖化防止)		リサイクル			
原油換算(キロリットル)	t-CO ₂	再資源化率	総発生量(トン)	最終処分量(トン)	再資源化量(トン)
192	270	99.4%	159	1	158
PRTR(トン)					
総取扱量	大気	水質	土壌	移動	消費
15.88	3.52	0.00	0.00	1.13	11.23

ミサワホーム札幌工場
(協力工場)

〒061-3244 北海道石狩市新港南2-725-1

主な住宅生産部材:木質住宅用パネル

省エネルギー(地球温暖化防止)		リサイクル			
原油換算(キロリットル)	t-CO ₂	再資源化率	総発生量(トン)	最終処分量(トン)	再資源化量(トン)
678	1,274	98%	1,217	25	1,192
PRTR(トン)					
総取引量	大気	水質	土壌	移動	消費
5.65	1.34	0.00	0.00	0.41	3.90

ミサワホーム山梨工場
(協力工場)

〒408-0021 山梨県北杜市長坂町長坂上条2228-5

主な住宅生産部材:木質住宅用パネル

省エネルギー(地球温暖化防止)		リサイクル			
原油換算(キロリットル)	t-CO ₂	再資源化率	総発生量(トン)	最終処分量(トン)	再資源化量(トン)
542	869	69%	110	34	76
PRTR(トン)					
総取引量	大気	水質	土壌	移動	消費
3.00	0.03	0.18	0.00	0.27	2.52

ミサワホーム磯原工場
(協力工場)

〒319-1546 茨城県北茨城市磯原町大塚1078

主な住宅生産部材:木質住宅用パネル

省エネルギー(地球温暖化防止)		リサイクル			
原油換算(キロリットル)	t-CO ₂	再資源化率	総発生量(トン)	最終処分量(トン)	再資源化量(トン)
345	553	80%	219	43	176
PRTR(トン)					
総取引量	大気	水質	土壌	移動	消費
2.18	1.26	0.00	0.00	0.10	0.82

ミサワホーム福井工場
(協力工場)

〒910-2162 福井県福井市南山町28-1

主な住宅生産部材:木質住宅用パネル

省エネルギー(地球温暖化防止)		リサイクル			
原油換算(キロリットル)	t-CO ₂	再資源化率	総発生量(トン)	最終処分量(トン)	再資源化量(トン)
245	401	94%	190	12	178
PRTR(トン)					
総取引量	大気	水質	土壌	移動	消費
2.17	1.03	0.00	0.00	0.12	1.02

ミサワホーム島根工場
(協力工場)

〒697-1321 島根県浜田市周布町1066-13

主な住宅生産部材:木質住宅用パネル

省エネルギー(地球温暖化防止)		リサイクル			
原油換算(キロリットル)	t-CO ₂	再資源化率	総発生量(トン)	最終処分量(トン)	再資源化量(トン)
221	344	75%	169	42	127
PRTR(トン)					
総取引量	大気	水質	土壌	移動	消費
0.80	0.06	0.10	0.00	0.07	0.57

ミサワホーム富山工場
(協力工場)

〒931-8334 富山県富山市千原崎1-6-3

主な住宅生産部材:木質住宅用部材・部品

省エネルギー(地球温暖化防止)		リサイクル			
原油換算(キロリットル)	t-CO ₂	再資源化率	総発生量(トン)	最終処分量(トン)	再資源化量(トン)
178	257	100%	389	0	389
PRTR(トン)					
総取引量	大気	水質	土壌	移動	消費
1.72	1.39	0.00	0.00	0.04	0.29



ゼロ・エミッション 2007年度中に、ミサワテクノ直系全10工場のゼロ・エミッション達成を目指しています。

chapter.1

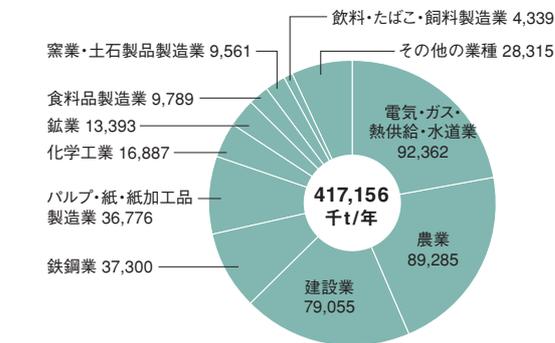
「MIZE」の推進

■ “3R”の視点から産業廃棄物を削減

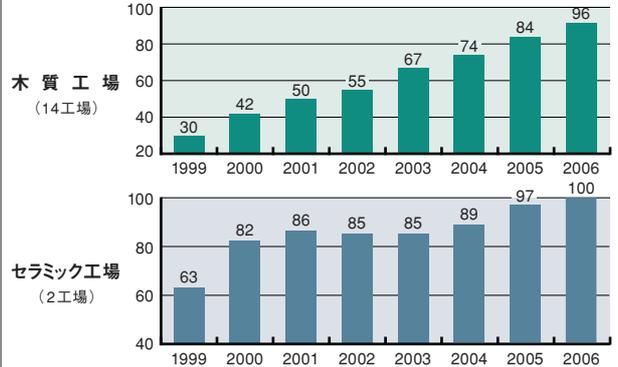
環境省がまとめた「産業廃棄物の業種別排出量(2004年)」によると、年間総排出量417,156千tのうち建設業は79,055千tで、全体の19.0%。前年より0.8%増加しました。ミサワホームは生産工場や施工現場から排出される産業廃

棄物の削減を目的とした活動[MIZE(マイズ):MISAWA Zero Emission]を実施。廃棄物の発生抑制(REDUCE)、梱包材や現場で発生する余剰品の削減、再生利用(RECYCLE)や再使用(REUSE)促進の現場分別の徹底など、3Rの視点からさまざまな施策を実行しています。

産業廃棄物の業種別排出量(2004年)



工場リサイクル率推移(%)



chapter.2

工場及び現場廃棄物の削減

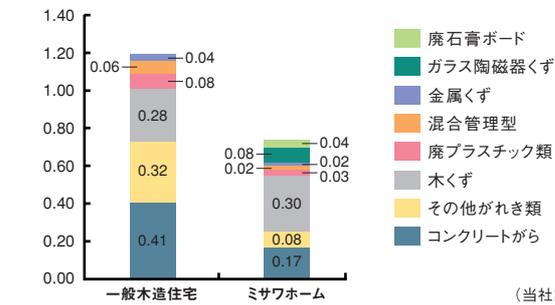
■ 工場のゼロ・エミッション*達成

ミサワホームでは、ミサワテクノ直系工場のゼロ・エミッションを、2006年度末までに10工場のうち8工場で達成。

2007年度中の全工場達成を目指しています。既に達成した工場では、さらなる改善のために社内基準を作成し、定期評価を実施していきます。また、廃棄物処理リスク低減対策のための全国工場の担当者を対象とした勉強会や、モデルディーラーによるゼロ・エミッションも推進しています。

*廃棄物の埋立て及び単純焼却を行わず、リサイクル率100%とすること。

ミサワホームと一般木造住宅の解体廃棄物排出量比較(m³/m²)



■ 施工現場での廃棄物削減

ミサワホームでは、住宅施工現場における廃棄物排出量調査を毎年実施。継続的な改善を進めていきましたが、2006年度は商品構成の変化や新規形状部品等の開発が進み、1棟あたりの排出量は木質系住宅で約3.2トン、ハイブリッド



解体試行物件外観



上部構造体取り壊し



木くず排出状況



新築現場の廃棄物調査

系住宅では約2.4トンと昨年を大きく上回りました。今後は積算基準等のさらなる改善に努めていきます。

事務所における環境推進運動 事務所内での省エネやリサイクル推進に努め、社員一人ひとりの意識向上を図ります。

chapter.1

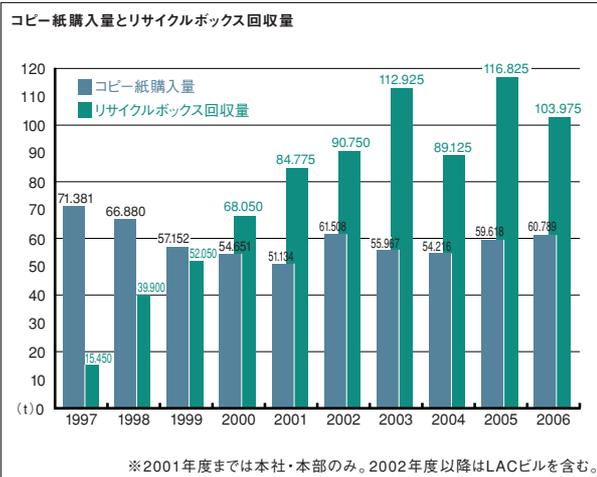
省エネ・資源有効活用への取り組み

■「チーム・マイナス6%」への参加

ミサワホームでは環境省が推進する「チーム・マイナス6%」に参加し、省エネ機器の積極導入や照明配置の見直しなどで電気を節約。空調は夏28℃、冬20℃を目安に管理し、終業時間の18:00には停止しガスを節約しています。

■リサイクルボックスの設置

社内に設置しているリサイクルボックスの2006年度回収量は103,975kg(直径14cm・高さ8mの原木2,080本分相当)。10年間に事業所活動で再資源化した使用済み用紙総量は、森林面積換算で東京ドーム約3.3個分相当となります。



環境コミュニケーション ミサワホームの環境活動を、より多くの方々にご理解いただけるよう努めています。

chapter.1

環境情報公開

■事業所や工場を通じたコミュニケーション

ミサワホームでは、地域の事業所や工場を通じ、地域の皆さまとのコミュニケーションを大切にしています。ミサワホーム



地域の皆さまとのコミュニケーション

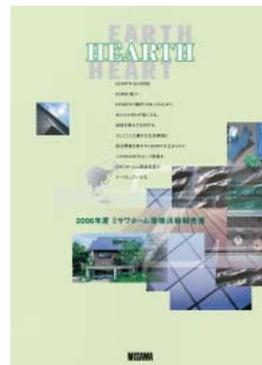
岡山工場では2006年10月に、地域貢献の一環として近隣の皆さまを招待した「ミサワフェスタinびぜん」を開催。今回は前年に続く2回目の開催となり、2,350名ものご参加をいただきました。機関車トーマスに仕立てた電動車による工場内見学で、ゼロ・エミッションなど、工場での環境活動の取り組みをご紹介します。



ミサワフェスタinびぜん

■「環境報告書」などを通じたコミュニケーション

ミサワホームは1999年、業界初の環境活動報告書「HEARTH」を発行。環境配慮型商品の開発や工場、事業所での取り組みなど、幅広い環境活動を広く公開し、毎年の発行を続けてきました。環境報告書には、お読みいただいた方々からのご意見・ご感想をいただき、よりよい報告書づくりに役立てるため、アンケートを添付。2005年度版からは、このアンケート結果も報告書にて公開しています。発行開始から9年目を迎える2007年からは「CSR報告書」として装いも新たに発行していますが、今後も引き続きアンケートなどによりステークホルダーの方々との積極的なコミュニケーションを図っていきます。



2006年度環境活動報告書

ミサワホームグループの沿革

- 1960 ●すぐれた断熱性・気密性を実現する画期的な「木質パネル接着工法」による工業化住宅を開発
- 1962 ●業界初の建設大臣認定を受けて営業開始
- 1964 ●ホームエンジニア制度採用
- 1965 ●プレハブ部材専門工場を松本に完成
- 1966 ●業界初の保証制度実施
- 1967 ●ミサワホーム株式会社設立
①「木質パネル接着工法」が評価され、第9次南極観測の「第9居住棟」「ヘリコプター格納庫」にミサワホームが採用
- 1968 ●松本工場の建設に着手
●《ホームコア》を発売
- 1969 ②研究開発体制をいっそう強化・充実させるため、開発室を改組してミサワホーム総合研究所を設置
- 1970 ●万国博施設参加で未来住宅《ヘリコ》を出展
- 1971 ●《フリーサイズF350》建設大臣の認定を得る
同年ホームコアと共に公庫承認を得る
●ミサワホーム、東証2部に上場
●米ケンタッキー州 INBEX（国際工業住宅博覧会）に日本の住宅メーカーとして初参加
- 1974 ●ミサワホーム総合研究所の新社屋完成に伴い、降雪・暴風雨などの実大実験ができる環境実験室を設置
●省エネルギーの到達目標を明示し、一貫した開発計画のもとに段階的に追求していく「エコ・エネルギー計画」を発表
●「ミサワホームF」建設大臣工業化住宅性能認定を受ける
- 1975 ●「ミサワホームC」建設大臣工業化住宅性能認定を受ける
●通産大臣から品質管理優良工業認定を受ける（18工場）
- 1976 ●ベストセラー企画住宅「O型」を発売
●「ハウス55開発提案競技」に入選
- 1977 ●「太陽エネルギー利用住宅」の開発に着手し、当時先進のパッシブソーラーハウスの試行建設を実施
- 1978 ●通産大臣による品質管理優良工場認定が21工場に
- 1979 ●アメリカの著名な消費者運動家ラルフ・ネーダー氏が来日し、日本の住宅産業に「12の提言」
- 1980 ③太陽熱を利用する独自の温水システムを越屋根に搭載した省エネルギー型ソーラーハウス「SⅢ型」発売
- 1981 ④当時の国家プロジェクト「ハウス55計画」を商品化させた環境負荷の少ない住宅「ミサワホーム55」発売
●「エコ・エネルギー住宅」の次なる目標として、「ゼロ・エネルギー住宅」の研究開発に着手
●「新耐震設計基準」を施行、ミサワホーム全商品で基準をクリア
●「長期保証制度」を実施
●ミサワホーム東証、大証第1部に上場
- 1982 ●リフォーム専門のホームイングを設立
- 1983 ●24時間サービス体制スタート
●「フレッシュタウン日の出」建設大臣表彰を受賞
- 1985 ⑤「センチュリーA8」が建設省の推進するセンチュリーハウジングシステム第1号として評価
- 1986 ●床下に独自の防蟻シートを貼る、健康にも環境にもやさしい白アリ対策「無公害防蟻床工法」を開発
- 1987 ●国際居住博覧会に180度回転する未来住宅「フューチャーホーム2001」出展
- 1988 ●CIをグループに導入
- 1989 ●ラルフ・ネーダー氏が来日し、ミサワホームセミナーにおいて新たな住宅・環境問題に関する「7つの提言」
●ミサワカレンダー、3年連続通産大臣賞を受賞
●「NEAT」が日本経済新聞社優秀製品優秀賞受賞
- 1990 ●ミサワホームグループ全体の企業行動理念として、地球環境を視野に入れた「環境宣言」を発表
●「花と緑の博覧会」に太陽追尾システムを搭載した「ゼロ・エネルギー住宅」のイメージモデルを出展
●「GOMAS」の高級引違いサッシ、通産省のグッドデザイン部門別大賞を受賞
- 1991 ●超微粒子木材を他素材と複合することで、貴重な木資源を余すことなく活用する「M-Wood」を開発
●「GOMAS」日本経済新聞社・優秀製品優秀賞を受賞
●南極昭和基地再開発構想の第1弾「管理棟」を国立極地研究所より受注
●'91グッドデザインマーク商品に「GOMAS」が工業化住宅として初の選定
- 1992 ⑥生活エネルギー自給率85%で、売電システム初採用の「エコ・エネルギー住宅」を開発、試行建設を実施
●ミサワ総研『住まいの文化誌』が建設大臣表彰受賞
- 1993 ●介護専用型住宅「マザアス南柏」完成
- 1994 ●太陽電池モジュールがそのまま屋根になる、世界初の屋根建材型「太陽光発電システム」を本格発売開始



- | | |
|--|--|
| <p>1995</p> <ul style="list-style-type: none"> ●北米材から、計画植林・伐採可能な北欧材への切り替えとして、フィンランドに製材工場を建設 ●「100年住宅」誕生 ●阪神・淡路大震災で建物倒壊なく、強度を立証 <p>1996</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑦「GENIUS蔵のある家」が、全部門の中から住宅として初のグッドデザイングランプリを受賞 ●ミサワバウハウスコレクションを開設 ●住まいテクノロジー「MIFパーク」をオープン <p>1997</p> <ul style="list-style-type: none"> ●環境理念と6つの行動指針を発表した、新・環境宣言「HEARTH」リーフレットを作成 ●ミサワホーム松本工場が環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001認証を業界で初めて取得 ●「消費者志向優良企業」として通産大臣賞を受賞 ⑧リサイクルした素材とリサイクルできる素材だけで構成された「100%リサイクル住宅」を試行建設 ●ミサワホームフィンランド、信用格付で「AAA」を取得 ●JR2社と新型寝台車両の内装を共同開発 ●'97グッドデザインマーク商品に「ミサワオリジナルガーデンシステム」が金賞を受賞 ●東大と3階建住宅の実大振動実験を実施 <p>1998</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑨創エネルギー、省エネルギー、オール電化設備を融合した世界初のゼロ・エネルギー住宅「HYBRID-Z」発売 ●「ゼロ・エネルギー住宅」の企画販売などが評価され、環境省より「環境保全功労者」に表彰（地球温暖化部門） ●世界初の屋根建材型太陽光発電システムが評価され、第8回「日経地球環境技術賞」を受賞 ●「HYBRID-Z」がグッドデザイン金賞を受賞 <p>1999</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「M-Wood」の技術を応用し、建築解体廃棄物の再生利用が可能な100%リサイクル木素材「M-Wood2」を開発 ⑩「M-Wood」の開発や「ゼロ・エネルギー住宅」の実現などが評価され、業界初の「地球環境大賞」を受賞 ●（財）建築環境・省エネルギー機構が創設した「環境共生住宅」認定を、「エコ・エネルギー住宅」が取得 ●ミサワホームの環境への幅広い取り組みを紹介した、業界初の「環境活動報告書」を作成 ●ミサワホーム北日本が店頭公開 ●ミサワホームが「ISO14001」の認証を取得 ●「オナースヒル新百合ヶ丘」がグッドデザイン賞受賞 <p>2000</p> <ul style="list-style-type: none"> ●太陽光発電システムなど、21世紀の環境技術を融合した環境共生住宅「HYBRID地球人の家」発売 ●「M-Wood2 エクステリア」などがグッドデザイン賞受賞 ●東北ミサワホーム東証1部に上場 | <p>2001</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑪既存樹木と地形をいかし、自然との共生をよく考えたまちづくり『宮崎台「桜坂」』がグッドデザイン賞を受賞 ●ミサワホーム岡山工場の新エネルギーシステムが新エネ大賞最高賞の「経済産業大臣賞」を受賞 ●「ミサワホームイング」を全国展開 ●量産企画工業化住宅「LIMITED25」を期間限定発売、1ヵ月で3,728棟記録 <p>2002</p> <ul style="list-style-type: none"> ●微気候に配慮した快適なまちづくりを推進するマリナイスト21「森と海・碧浜」が第1期分譲開始 ●「微気候設計・デザイン」を取り入れた快適な住性能が評価され、「CENTURY」がグッドデザイン賞を受賞 ●100%リサイクル木素材「M-Wood2」のエクステリア部品が、（財）日本環境協会によるエコマーク認定 ●ライフサポート宣言 <p>2003</p> <ul style="list-style-type: none"> ●フロアセントラル換気システム技術をオープン化 ●ミサワホームホールディングスを設立 <p>2004</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑫実大振動実験における13回の想定大地震にも構造体の損傷ゼロを確認した制震装置「MGEO」発売 ●世界最大の太陽光発電住宅モデル団地「ヒルズガーデン清田」が北海道新エネルギー促進大賞受賞 ●「M-Wood2」が「愛・地球博」の会場デッキ、西エントランス部分の合計約19,000㎡に採用 ●燃料電池市場参入開始 ●品川区高齢者複合施設「ケアホーム西五反田」「さくらハイツ西五反田」オープン ●臨沂三澤有限公司、JAS認定を取得 ●新潟県中越地震で建物倒壊なく、強度を立証 <p>2005</p> <ul style="list-style-type: none"> ●“エコノマイズ”を提唱する「HYBRID自由空間」発売 ●「M-Wood」が広域認定制度の認定を取得し、端材の広域回収による効率的なリサイクルを実現 ●「GENIUS SMART STYLE ECO MODEL」発売 ●在来木造りフォーム用制震システム「MGEO-R」発売 ⑬先人の知恵と先進の技術・デザインを融合した「ECO・微気候デザイン」全面採用の「CENTURY VikiCourt」発売 ●ハイブリッド住宅用制震装置「MGEO-H」発売 <p>2006</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑭都市で快適に暮らす「ECO・微気候デザイン」を取り入れた「GENIUS URBAN DESIGNERS VikiFEMY」発売 ●太陽光発電、オール電化を標準装備し、「ECO・微気候デザイン」採用の「HYBRID ECO-design」がグッドデザイン賞を受賞 ●「ミサワパーク東京」など住まいづくりのテーマパークが全国各地にオープン |
|--|--|



ミサワホームグループネットワーク

ミサワホームホールディングス株式会社（東証、大証、名証各1部）03-3345-1111

住宅事業

ミサワホーム	03-3331-1111
木質ニューラナー	
【北海道】	
ミサワホーム北海道(札幌)	011-822-1111
【東北】	
ミサワホーム北日本(JASDAQ) (青森・秋田)	018-824-1111
東北ミサワホーム(東証1部) (岩手・宮城・山形)	022-724-3301
ミサワホーム福島 (福島)	024-554-4111
ミサワホーム庄司 (福島)	0244-24-1818
堀江ミサワホーム (福島)	0246-21-3385
【関東甲信越】	
ミサワホーム下館 (茨城)	0296-28-3911
栃木ミサワホーム (栃木)	028-610-0330
上信ミサワホーム (群馬)	0274-64-1385
ミサワホーム西関東 (群馬・埼玉)	048-855-5711
ミサワホーム東関東 (茨城・千葉)	043-245-8111
ミサワホーム館山 (千葉)	0470-23-1040
旭ミサワホーム (千葉)	0479-63-7633
ミサワホーム東京 (東京・神奈川)	03-5344-6811
多摩中央ミサワホーム (東京)	042-527-3383
湘南ミサワホーム (神奈川)	0466-33-6666
ミサワホーム信越 (新潟・長野)	025-232-3330
ミサワホーム上越 (新潟)	025-521-0330
ミサワホーム佐渡 (新潟)	0259-57-3142
ミサワホーム山梨 (山梨)	055-228-6565
ミサワホーム東長野 (長野)	0267-68-4411
【北陸】	
北陸ミサワホーム(JASDAQ) (富山・石川・福井)	076-222-1558
ミサワホーム富山 (富山)	076-433-4411
【東海】	
ミサワホーム静岡 (静岡)	054-257-1111
ミサワホーム東海 (岐阜・愛知・三重)	052-782-2131
飛騨ミサワホーム (岐阜)	0577-33-1135
【近畿】	
ミサワホーム近畿 (滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良)	06-6341-1301
ミサワホーム杉橋 (滋賀)	0740-22-3750
和歌山ミサワホーム (和歌山)	073-436-6233
ミサワホーム高階 (兵庫)	0794-84-0960
ミサワホーム神田組 (兵庫)	0790-45-1312
【四国】	
穴吹ミサワホーム (徳島・香川・愛媛・高知)	087-868-4711
ミサワホーム小豆島 (香川)	0879-62-0289
【中国】	
ミサワホームサンイン(JASDAQ) (鳥取・島根)	0857-23-2000

ミサワホーム中国(JASDAQ) (岡山・広島・山口)	082-293-3111
ミサワホーム中原組 (山口)	0837-23-0120
【九州】	
ミサワホーム九州 (福岡・長崎・熊本・大分・鹿児島)	092-431-3390
ミサワホーム佐賀 (佐賀)	0952-23-7141
ミサワホーム別府 (大分)	0977-22-3380
ミサワホーム宮崎 (宮崎)	0985-28-6311
セラムミックニューラナー	
【東北】	
ミサワセラミックホーム仙台 (宮城)	022-284-6011
【関東甲信越】	
ミサワセラミックホーム栃木 (栃木)	028-610-0330
ミサワホーム西関東セラミック (群馬・埼玉)	048-855-5761
ミサワホーム東関東セラミック (茨城・千葉)	043-309-2115
ミサワホームセラミック (埼玉・東京・神奈川)	03-3247-2060
ミサワセラミックホーム信越 (新潟・長野)	025-232-3380/0263-25-9252
【北陸】	
北陸ミサワホームセラミック (石川)	076-222-2205
【東海】	
ミサワホームセラミック (静岡)	055-988-5330
ミサワホーム静岡セラミック (静岡)	054-257-1125
ミサワホームセラミック (愛知・岐阜)	052-769-5700
ミサワホーム東海セラミック (岐阜・愛知・三重)	052-782-2131
ミサワセラミックホーム遊 (愛知)	052-322-4611
ミサワセラミックホーム三重 (三重)	0598-51-5515
【近畿】	
ミサワホームセラミック (滋賀・京都・大阪・奈良・兵庫)	06-6341-7655
ミサワセラミックホーム南海 (和歌山)	073-436-6233
ミサワセラミックホーム和歌山 (和歌山)	073-436-6255
【四国】	
穴吹ミサワホームセラミック (徳島・香川・愛媛・高知)	087-868-4711
【中国】	
ミサワセラミックホームサンイン (鳥取・島根)	0857-23-2000
ミサワセラミックホーム中国 (岡山・広島・山口)	086-245-1212
ミサワセラミックホーム新山口 (山口)	0833-71-6666
【九州】	
ミサワホーム九州セラミック (福岡・熊本・大分・長崎)	092-441-1171
ミサワセラミックホーム佐賀 (佐賀)	0952-23-7141
ミサワセラミックホーム宮崎 (宮崎)	0985-28-6311
ミサワセラミックホーム鹿児島 (鹿児島)	099-250-0338
ホームインク	
【北海道】	
ミサワホームインク北海道 (北海道)	011-846-0140
【東北】	
ミサワホームインク北日本 (青森・秋田)	018-864-0330
ミサワホームインク東北 (岩手・宮城・山形・福島)	022-284-8515

【関東甲信越】

ミサワホームインク栃木 (栃木)	028-610-9364
ミサワホームインク西関東 (群馬・埼玉)	048-855-5713
ミサワホームインク東関東 (茨城・千葉)	043-309-2121
ミサワホームインク東京 (東京・神奈川)	03-5344-7510
ミサワホームインク多摩 (東京)	042-527-3387
ミサワホームインク湘南 (神奈川)	0466-34-1591
ミサワホームインク新潟 (新潟)	025-232-3340
ミサワホームインク山梨 (山梨)	055-268-7750
ミサワホームインク長野 (長野)	0263-54-8330
【北陸】	
ミサワホームインク北陸 (富山・石川・福井)	076-233-3323
ミサワホームインク富山 (富山)	076-433-4412
【東海】	
ミサワホームインク静岡 (静岡)	054-257-1152
ミサワホームインク東海 (岐阜・愛知・三重)	052-789-1717
【近畿】	
ミサワホームインク近畿 (滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良)	06-6341-7610
ミサワホームインク和歌山 (和歌山)	073-436-6233
【四国】	
穴吹ミサワホームインク (徳島・香川・愛媛・高知)	087-868-4881
【中国】	
ミサワホームインクサンイン (鳥取・島根)	0857-23-2000
ミサワホームインク中国 (岡山・広島・山口)	086-245-0400
【九州】	
ミサワホームインク九州 (福岡・長崎・熊本・大分・鹿児島)	092-441-7466
ミサワホームインク佐賀 (佐賀)	0952-23-7141
ミサワホームインク宮崎 (宮崎)	0985-28-6311
【セラムミック】	
ミサワホームインクセラミック (東京・埼玉・静岡・愛知・大阪)	03-3247-8300

関連事業

ミサワホーム総合研究所	03-3332-5111
創研	03-5929-1851
ミサワエムアールディー	03-3345-7990
メディアエムジー	03-5339-8500
マザアス	04-7176-8711
ミサワテクノ	0263-58-2100
【海外】	
ミサワホームフィンランド	
臨沂三澤木業有限公司	

2007年3月31日現在

CSR報告書評価

ミサワホームでは2007年度より従来の「環境報告書」を「CSR報告書」に改めるにあたり、掲載内容等の網羅性や妥当性について、第三者評価を受審し、ご意見を頂きました。第三者評価報告書において頂いたご意見を真摯に受け止め、検討して、継続的な改善を推進していきます。

第三者評価報告書

2007年9月20日

ミサワホーム 株式会社
代表取締役 佐藤 春夫 殿

1. CSR報告書の評価目的

財団法人ベターリビングシステム審査登録センターは、第三者として、ミサワホーム株式会社からの評価依頼に基づき、一般に公正妥当と評されるガイドライン等の中からミサワホーム株式会社との協議により選定した審査基準により「HEARTH: 2007年度ミサワホームCSR報告書」の重要情報の網羅性及び信憑性、掲載データ情報の正確性及び妥当性について審査を行い、第三者の視点による評価意見を発表する。この第三者評価報告書が、ステークホルダーの判断の一助となることを目的としている。

2. 評価方法

財団法人ベターリビングシステム審査登録センターは、ミサワホーム株式会社の下記に記載するサイトにおいて制作担当部署等に面接し、外部公表されるCSR報告書についてサンプリングによる書面審査を行い、専門的な知見に基づき第三者の立場で掲載されている情報について評価を実施した。

なお、この第三者評価は、財団法人ベターリビングシステム審査登録センターとミサワホーム株式会社が選定した一般に公正妥当と評されるガイドライン等に基づいた審査方法で行われているが、これらのガイドライン等に対する準拠性を保証するものではない。また、サンプリング及び評価時点における審査手法の進展程度に基づいて一定の限界を示している。

〔現地審査実施サイト〕 本社

3. CSR報告書に対する総括的評価

1999年より環境報告を実施されてきた実績を基礎とし、近年の社会的な要請にも鑑みて今回の報告書からCSR報告書として発行されることとなった。

CSR報告書の初年度ということでミサワホームのCSR経営が、どのように展開されているかというところに主眼を置いた記述がなされており、かつ、CSR報告書の初年度から第三者評価を受審される企業姿勢は、CSR経営に関する情報開示姿勢として評価される。これらの紹介された活動が、どのように継続的に展開されていくのかが期待される開示内容となっている。

4. 開示テーマ及び分野毎の評価意見

環境報告に関しては、住まいという住環境をデザインする企業として、地球環境に配慮した企業活動を推進していくためには何をなすべきかという問題意識を持って環境に貢献してきた取り組みが、読者にわかりやすく伝えることを意識した編集方針を読み取ることができ、今後もミサワホームの企業力と業種特性を反映した取り組みが情報開示されていくことを期待する。

社会性報告・経済性報告については、CSR報告書による情報開示へ移行する際に社会一般から求められる開示内容を一通り掲載することに成功している。

来年度以降は、紹介された取り組みの成果、どのようなプロセスを経てミサワホーム自身のCSR経営が継続的に改善されてきたかという記述を充実させ、環境報告の歴史の中で培われてきたノウハウを活かしつつ充実したCSR報告書が発行されることを期待する。

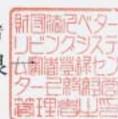
特に、①継続的なコンプライアンス活動の充実、②長年培われてきた技術や商品力を如何にして社会貢献のために積極的に活用するか、③ミサワホームと関わるステークホルダーから期待されている社会的な責任についてなどが、より情報開示の充実が期待されるテーマである。

また、CSR報告書を有効活用し、ステークホルダーとのコミュニケーションを深めつつ、CSR経営に関する情報開示のスタイルを確立していくことを期待する。



財団法人 ベターリビング
システム審査登録センター

上級経営管理者
萩原 良



最後までお読みいただき、ありがとうございました。
ご意見・ご感想をお聞かせください。

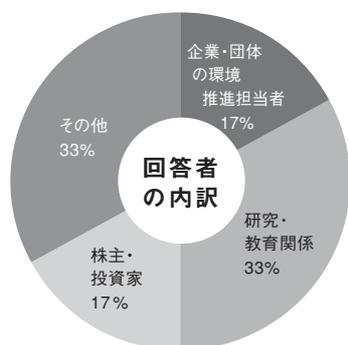


ミサワホームは、工業化住宅メーカーとして
社会的責任を果たし、環境保全に努めるとともに、その活動内容を年度ごとに
「ミサワホームCSR報告書」にまとめ、広く公開してまいります。
今後のよりよい報告書づくりのために、
皆さまから多くの貴重なご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。
よろしければ、お手数ですが、裏面のアンケートにご記入のうえ、FAXまたは郵送にて
ご返信いただきますようお願い申し上げます。

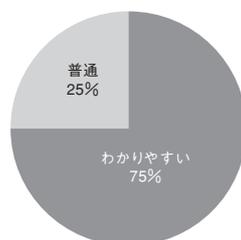
2007年9月

2006年度ミサワホーム環境活動報告書 読者の皆さまのアンケート結果

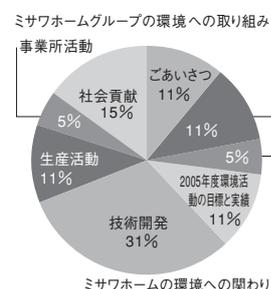
昨年までは「ミサワホーム環境活動報告書」として、
読者の皆さまから貴重なご意見・ご感想をお寄せいただきました。ご協力いただきありがとうございました。
今年度からはCSR報告書として内容を改めています。引き続きアンケートにもご協力いただきますようお願いいたします。



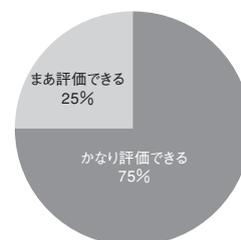
Q1 この報告書の内容は
いかがでしたか。



Q2 この報告書の中で印象に残った、
または役に立ったと思われる
内容はどれですか。(複数回答可)



Q3 この報告書を読まれて、
ミサワホームの環境活動について
どのように思われましたか。



ミサワホーム株式会社 建設推進部 環境推進グループ

2007年度 ミサワホームCSR報告書 アンケート

Q1 この報告書の内容はいかがでしたか?

- わかりやすい 普通 わかりにくい

Q2 この報告書の中で、印象に残った、役に立ったと思われる内容はどれですか?(いくつでも可)

- 会社概要・編集方針 トップコミットメント 企業理念 経営ビジョン コーポレートガバナンス 2006年度CSR活動トピックス
HEART 良質な商品の開発 良質なサービスの提供 労働環境の整備
協力・教育・啓発 経営指標及び開示方針 まちづくり 社会貢献
EARTH ミサワホームグループの環境への取り組み ミサワホームの環境会計 ミサワホームの環境マネジメントシステム
ミサワホームの環境への関わり 2006年度環境活動の目標と実績 CO₂削減 資源の有効活用
健康配慮 サイトレポート ゼロ・エミッション 事務所における環境推進運動 環境コミュニケーション
ミサワホームグループの沿革 ミサワホームグループネットワーク

内容についてのご意見・ご感想を具体的にお聞かせください。

()

Q3 この報告書を読まれて、ミサワホームのCSR活動についてどのように思われましたか?

- かなり評価できる まあ評価できる あまり評価できない まったく評価できない
上記のように思われた理由をお聞かせください。

()

Q4 この報告書をどのような立場でお読みになりましたか?

- 住宅購入検討者 お取引先 株主・投資家 報道関係 研究・教育関係
企業・団体のCSR・環境推進担当者 環境NPO 学生 行政機関
ミサワホームグループの事業所周辺にお住まいの方 ミサワホームグループの従業員または家族
その他()

Q5 今後の住宅メーカーの取り組むべき社会的責任・環境課題等について、ご意見をお聞かせください。

()

Q6 来年度の報告書をご希望になりますか?

- 希望する 希望しない

お名前 _____ 性別 _____ ご年齢 _____ 歳

ご住所 〒 _____ ご職業(勤務先・学校名など) _____

ご連絡先 電話番号: _____ Eメールアドレス: _____

ご協力ありがとうございました。

MISAWA



発行部署 ミサワホーム株式会社
建設推進部 環境推進グループ 広報部 広報グループ
〒163-0833 東京都新宿区西新宿二丁目4番1号

お問い合わせ先 TEL:03-3349-8354 FAX:03-5381-7299 E-Mail:kankyo@misawa.co.jp
www.misawa.co.jp/csr/ 2007.9 発行